

スポーツ鍼灸科

鍼灸科

実務的科目一覧

※色で塗られている科目が、今年度配置されている実務経験のある教員による授業科目

鍼灸科

分野	教育内容	必修 選択	授 業 科 目	区 分	単位 数	科目 時間	1年次		2年次		3年次		
							前	後	前	後	前	後	
基礎	科学的思考の 基盤 人間と生活	必修	スポーツ健康学Ⅰ(保健体育)	講義	4	60	30	30					
		必修	スポーツ健康学Ⅱ(生物学)	講義	4	60	30	30					
		必修	スポーツ健康学Ⅲ(栄養学)	講義	2	30	30						
		必修	スポーツ健康学Ⅳ(コミュニケーション)	講義	2	30		30					
		必修	スポーツ健康学Ⅴ(体力学)	講義	2	30		30					
専門基礎	人体の構造と 機能	必修	解剖学Ⅰ	講義	2	60	30	30					
		必修	解剖学Ⅱ	講義	2	60			30	30			
		必修	生理学Ⅰ	講義	2	60	30	30					
		必修	生理学Ⅱ	講義	2	60			30	30			
		必修	解剖生理学Ⅰ	講義	1	30	15	15					
		必修	解剖生理学Ⅱ	講義	1	30			15	15			
	疾病の成り立 ち、予防及び 回復の促進	必修	運動学	講義	2	30				30			
		必修	臨床医学総論	講義	4	60			30	30			
		必修	臨床医学各論Ⅰ	講義	2	60			30	30			
		必修	臨床医学各論Ⅱ	講義	2	60					30	30	
	保健医療福祉とはり 及びきゅうの理念	必修	病理学概論	講義	2	60			30	30			
		必修	リハビリテーション医学	講義	2	30			30				
		必修	衛生学・公衆衛生学	講義	1	30	30						
専門	基礎はりきゅう 学	必修	医療概論(職業倫理)	講義	1	15					15		
		必修	関係法規(社会保障制度)	講義	1	15					15		
		臨床はりきゅう 学	必修	基礎はりきゅう学Ⅰ(東洋医学概論Ⅰ)	講義	2	60	30	30				
			必修	基礎はりきゅう学Ⅱ(歴史)	講義	1	30	15	15				
			必修	基礎はりきゅう学Ⅲ(経絡経穴概論)	講義	2	60	30	30				
			必修	基礎はりきゅう学Ⅳ	講義	1	30	15	15				
	必修		基礎はりきゅう学Ⅴ(東洋医学概論Ⅱ)	講義	2	60			30	30			
	必修		基礎はりきゅう学Ⅵ	講義	1	30			15	15			
	社会はりきゅう学		必修	臨床はりきゅう学Ⅰ(東洋医学臨床論Ⅰ)	講義	2	60			30	30		
			必修	臨床はりきゅう学Ⅱ	講義	1	30			15	15		
			必修	臨床はりきゅう学Ⅲ(東洋医学臨床論Ⅱ)	講義	2	60					30	30
			必修	臨床はりきゅう学Ⅳ	講義	1	30					15	15
			必修	臨床はりきゅう学Ⅴ(東洋医学臨床論Ⅲ)	講義	2	60					30	30
			必修	臨床はりきゅう学Ⅵ	講義	1	30					15	15
		必修	臨床はりきゅう学Ⅶ(東洋医学臨床論Ⅳ)	講義	2	60					30	30	
		必修	臨床はりきゅう学Ⅷ(はりきゅう理論)	講義	2	60					30	30	
	実習	必修	社会はりきゅう学	講義	2	30						30	
		必修	はりきゅう実技Ⅰ	実技	2	60	30	30					
		必修	はりきゅう実技Ⅱ	実技	2	60	30	30					
		必修	はりきゅう実技Ⅲ(臨床実習前施術実技試験)	実技(集中)	2	60	30	30					
		必修	はりきゅう実技Ⅳ	実技	2	60				30	30		
		必修	はりきゅう実技Ⅴ	実技	2	60				30	30		
		必修	はりきゅう実技Ⅵ	実技	2	60				30	30		
		必修	はりきゅう実技Ⅶ	実技	2	60						30	
臨床実習	必修	はりきゅう実技Ⅷ	実技	2	60						30		
	必修	はりきゅう臨床実習Ⅰ	実技(集中)	1	45		45						
	必修	はりきゅう臨床実習Ⅱ	実技(集中)	1	45			45					
	必修	はりきゅう臨床実習Ⅲ	実技(集中)	1	45				45				
総合領域	必修	はりきゅう臨床実習Ⅳ	実技(集中)	1	45					45			
	必修	総合領域Ⅰ(生体観察)	講義	2	60	30	30						
	必修	総合領域Ⅱ(病態生理学)	講義	2	60			30	30				
	必修	総合領域Ⅲ	講義	2	60					30	30		
	必修	総合領域Ⅳ	講義	1	30					15	15		
	必修	総合領域Ⅴ	講義	2	60					30	30		
	必修	総合領域Ⅵ	講義	1	30					30			
	必修	総合領域Ⅶ	講義	1	30						30		
	必修	総合領域Ⅷ	講義	1	30						30		
必修	総合領域Ⅸ	講義	2	75						75			
合計					99	2655	405	450	450	450	450	450	
今年度配置されている実務経験のある教員による授業科目					85	2415	315	360	450	450	420	420	

シラバス (授業計画書)

科目名 (臨床医学各論Ⅱ)

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

諸疾患について、成因、病態生理、症状、検査、治療を学習する。

2 到達目標

諸疾患の成因、病態生理、主な症状、主な検査、治療法、予後について、キーワードをあげて説明できる。

3 授業の方法

教科書、配布プリント、パワーポイントによる講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100% (後期試験の点数を最終評価とする)

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習 (予習・復習等) の具体的内容

復習時は、臨床医学各論の教科書だけではなく、解剖学・生理学・病理学・臨床医学総論の該当ページもよく読み、疾患の特徴を理解できるまで確認すること。

7 使用教材、教具

「臨床医学各論」医歯薬出版

「病気がみえるシリーズ」メディックメディア

「NHKきょうの健康」NHK出版

8 学生へのメッセージ

患者さんの施術をしていると、多くの病気の知識が必要であることを実感します。病気をすることは、いい鍼灸施術にもつながるという担当教員の実体験も交えて、臨床に役に立ち、なおかつ国家試験にも対応できる知識を伝えたいと思います。

9 教員氏名 (高橋 美如)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科)

実務経験の詳細 (施術所での実務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (臨床医学各論Ⅱ)

回数	授業内容
1	第11章 神経疾患 (1) 運動の異常
2	第11章 神経疾患 (2) 脳血管疾患
3	第11章 神経疾患 (3) 感染性疾患
4	第11章 神経疾患 (4) 脳・脊髄腫瘍
5	第11章 神経疾患 (5) 基底核変性疾患
6	第11章 神経疾患 (6) その他の変性疾患
7	第11章 神経疾患 (7) 認知症性疾患
8	第11章 神経疾患 (8) 筋疾患, 運動ニューロン疾患, 脱髄性疾患
9	第11章 神経疾患 (9) 末梢性神経疾患①
10	第11章 神経疾患 (10) 神経痛, 機能的疾患
11	第12章 リウマチ性疾患・膠原病 (1) リウマチ性疾患
12	第12章 リウマチ性疾患・膠原病 (2) 膠原病
13	第13章 その他の領域 (1) 小児の疾患
14	第13章 その他の領域 (2) 一般外科
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第13章 その他の領域 (3) 麻酔科
18	第13章 その他の領域 (4) 婦人科疾患
19	第13章 その他の領域 (5) 皮膚科疾患
20	第13章 その他の領域 (6) 眼科疾患
21	第13章 その他の領域 (7) 耳鼻科疾患
22	第13章 その他の領域 (8) 精神科疾患
23	第13章 その他の領域 (9) 診療内科
24	第13章 その他の領域 (10) その他
25	第13章 その他の領域 (11) 過去問解説
26	疾患の総合的知識整理 (1)
27	疾患の総合的知識整理 (2)
28	疾患の総合的知識整理 (3)
29	疾患の総合的知識整理 (4)
30	疾患の総合的知識整理 (5)
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 医療概論（職業倫理） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

医学と医療の歴史および現代の医療制度と倫理観を認識し、現代医療に関わる制度について学習する。患者さんの良き援助者としての医療人となれるよう、はり師・きゅう師として必要な歴史と倫理を理解する。

2 到達目標

現代日本の医療制度と課題点，医療従事者としての倫理を説明できる。

3 授業の方法

配布資料を中心に授業を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各単元終了後に問題演習を行いますので，配布資料の復習をしてください。

7 使用教材，教具

「医療概論」医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

医療現場に関わる様々な制度・法律や倫理観は医療人として，必要な知識です。知識や技術だけではなく、患者さんに寄り添える人間性も育めるよう学習して下さい。

9 教員氏名（ 宮田 純 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (医療概論 (職業倫理))

回数	授業内容
1	第1章 医学史
2	第2章 現代の医学と医療 現代医学の課題
3	第2章 現代の医学と医療 医療従事者と医療施設
4	第2章 現代の医学と医療 医療と医療経済
5	第2章 現代の医学と医療 医療保険のしくみ①
6	第2章 現代の医学と医療 医療保険のしくみ②
7	第2章 現代の医学と医療 介護保険制度
8	第3章 医療倫理 医療者の倫理
9	第3章 医療倫理 医療者 - 患者の倫理
10	第3章 医療倫理 医学 - 社会の倫理
11	第3章 施術者としての倫理
12	まとめ
13	演習問題 (1)
14	演習問題 (2)
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 関係法規（社会保障制度） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

現代の医療制度を認識し、はり師・きゅう師に関わる法律知識について学習する。
はり師・きゅう師として必要な医療制度を理解し、医療人としての規範を逸脱することのないようにする。

2 到達目標

あんまマッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律を中心に、免許の資格要件や業務の範囲、違反した際の罰則などを説明できる。医療従事者として基本的な関係法規の種類と内容について理解する。

3 授業の方法

配布資料を中心に授業を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各単元終了後に問題演習を行いますので、配布資料の復習をしてください。

7 使用教材，教具

「関係法規 第7版」医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

鍼灸師として業務を行う上で、あんまマッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律に関する知識は必須です。自身と患者さんを守るために、生きた知識を身につけましょう。

9 教員氏名（ 宮田 純 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 関係法規（社会保障制度） ）

回数	授業内容
1	序論 法とは何か
2	第1章 あはき法 免許①
3	第1章 あはき法 免許②
4	第1章 あはき法 名簿の登録
5	第1章 あはき法 業務の範囲
6	第1章 あはき法 施術所の開設
7	第1章 あはき法 広告の制限・名称の制限
8	第1章 あはき法 罰則
9	第2章 関係法規 医事・薬事法規
10	第2章 関係法規 衛生関係法規
11	第2章 関係法規 環境衛生関係法規
12	第2章 関係法規 社会福祉関係法規①
13	第2章 関係法規 社会福祉関係法規②
14	まとめ 演習問題
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅲ（東洋医学臨床論Ⅱ） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

症状，疾患を引き起こしている原因や機序について，東洋医学的に学ぶ。

2 到達目標

症状を東洋医学的な考え方に置き換えて，弁証論治を行えるようになる。

3 授業の方法

教科書・配布プリントで行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

後期試験の点数を最終評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書を使い過去問の解説を作成すること。

7 使用教材，教具

「新版 経絡経穴概論」医道の日本社

「新版 東洋医学臨床論はりきゅう編」南江堂

8 学生へのメッセージ

これまで習ったことを復習しながら，知識を深めていきましょう。症状を東洋医学的に考えていくと，証を立てることができます。国家試験における症例問題の対策にもなりますので，そのつもりで授業に臨んでください。

9 教員氏名（ 山口 侃太 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (臨床はりきゅう学Ⅲ (東洋医学臨床論Ⅱ))

回数	授業内容
1	養生について
2	第1節(1)概説
3	第1節(2)頭痛
4	第1節(3)顔面痛
5	第1節(4)関節痛
6	第1節(5)頸肩腕痛・上肢痛・肩関節痛
7	第1節(6)腰下肢痛・腰痛・下肢痛・膝痛
8	第1節(7)胸痛
9	第1節(8)上腹部痛
10	第1節(9)下腹部痛
11	第2節(1)脱毛症
12	第2節(2)耳鳴り・難聴
13	第2節(3)排尿障害
14	第2節(4)ED
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第3節(1)疲労と倦怠感
18	第3節(2)発熱
19	第3節(3)冷え・のぼせ
20	第3節(4)浮腫
21	第3節(5)掻痒感, 肌荒れ, 発疹
22	診断の意義と治療計画
23	診察法と記録法
24	治療の基礎
25	症候に対する鍼灸診療
26	疾患に対する鍼灸診療
27	高齢者に対する鍼灸施術
28	スポーツ領域における鍼灸治療
29	産業衛生における鍼灸治療
30	健康と鍼灸治療
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅳ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

近年、男女共同参画社会が声高に謳われるようになり、女性のワーク・ライフスタイルは大きく変化し、それに伴う女性が抱える健康問題は増大・多様化している。当授業では東洋医学や鍼灸施術に期待される美容やマタニティ分野に的確に対応するために必要な知識を習得する。

2 到達目標

- ・頭顔面部の解剖生理学と美容医療の基本知識を習得する
- ・美容鍼の作用機序と、作用機序に基づく各技術の目的を理解する
- ・マタニティケアを行う上での婦人科・産科の基礎知識を習得する

3 授業の方法

PCプロジェクタを利用したプレゼンテーションソフトによる講義の他、講義内容に関連する課題に対するグループワークを実施する。

4 成績評価方法・基準

定期試験（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

授業態度は、質問への返答、グループワークの積極性等を総合的に評価する。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業内容を復習することにより知識を定着させ、スキンケアや妊娠・出産・育児に携わる家族・知人へ具体的なアドバイスができるようになり、美容鍼灸師、マタニティケアラーとしての意識を高める。

7 使用教材、教具

授業内容に従ってプリントを配布。その都度、参考文献を紹介する。

『これから目指す人のための美容鍼灸ハンドブック』フレグランスジャーナル社

『病気がみえる vol.10 産科』【第4版】メディックメディア

『逆子の鍼灸治療』【第2版】医歯薬出版株式会社 など

8 学生へのメッセージ

妊娠・出産・育児を支えるマタニティ鍼灸、美容医療と美容鍼について正しい医学的知識を学び、プロフェッショナルとして自信を持って活躍しましょう。

9 教員氏名（ 小嶺由美 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (臨床はりきゅう学Ⅳ)

回数	授業内容
1	オリエンテーション、美容鍼灸概論
2	頭顔面部の解剖学
3	講義：体質別フェイシャルオイルトリートメント 脾タイプ
4	講義：体質別フェイシャルオイルトリートメント 肺タイプ
5	講義：体質別フェイシャルオイルトリートメント 腎タイプ
6	講義：体質別フェイシャルオイルトリートメント 肝タイプ
7	講義：体質別美容鍼灸 脾タイプ（1）
8	講義：体質別美容鍼灸 脾タイプ（2）
9	講義：体質別美容鍼灸 肺タイプ（1）
10	講義：体質別美容鍼灸 肺タイプ（2）
11	講義：体質別美容鍼灸 腎タイプ（1）
12	講義：体質別美容鍼灸 腎タイプ（2）
13	講義：体質別美容鍼灸 肝タイプ（1）
14	講義：体質別美容鍼灸 肝タイプ（2）
15	定期試験
16	試験のフィードバック
17	講義：婦人科・産科基礎医学概論
18	講義：妊娠初期の基礎知識①
19	講義：妊娠初期の基礎知識②
20	講義：妊娠初期の基礎知識③
21	講義：妊娠中期の基礎知識①
22	講義：妊娠中期の基礎知識②
23	講義：妊娠中期の基礎知識③
24	講義：妊娠末期の基礎知識①
25	講義：妊娠末期の基礎知識②
26	講義：妊娠末期の基礎知識③
27	講義：産褥期の基礎知識①
28	講義：産褥期の基礎知識②
29	講義：周産期のクライアント対応①
30	講義：周産期のクライアント対応②
31	定期試験
32	試験のフィードバック

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅴ（東洋医学臨床論Ⅲ） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

症状，疾患を引き起こしている原因や機序について，東洋医学的に学ぶ。

2 到達目標

・症状を東洋医学的な考え方に置き換えて，弁証論治を行えるようになる。

3 授業の方法

教科書・配布プリントで行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

後期試験の点数を最終評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書を使い過去問の解説を作成すること。

7 使用教材，教具

「新版 経絡経穴概論」医道の日本社

「新版 東洋医学臨床論はりきゅう編」南江堂

8 学生へのメッセージ

これまで習ったことを復習しながら，知識を深めていきましょう。症状を東洋医学的に考えていくと，証を立てることができます。国家試験での症例問題の対策にもなりますので，そのつもりで授業に臨んでください。

9 教員氏名（ 山口 侃太 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (臨床はりきゅう学Ⅴ (東洋医学臨床論Ⅲ))

回数	授業内容
1	第2節(1) 眼精疲労
2	第2節(2) 気分障害・めまい
3	第2節(3) 動悸
4	第2節(4) 血圧異常
5	第2節(5) 睡眠異常
6	第2節(6) 肥満
7	第2節(7) やせ
8	第2節(8) 悪心・嘔吐
9	第2節(9) 便秘
10	第2節(10) 下痢
11	第2節(11) 歯痛
12	第2節(12) 咳嗽と喀痰
13	第2節(13) 呼吸困難
14	第2節(14) 鼻閉・鼻汁
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第4節(1) 顔面麻痺
18	第4節(2) 歩行異常
19	第4節(3) 口渇
20	第4節(4) 出血傾向
21	第5節(1) 月経異常
22	第5節(2) 性器出血
23	第5節(3) 帯下
24	第5節(4) 不妊症
25	第5節(5) つわり・骨盤位
26	第5節(6) 乳汁分泌不全
27	第6節(1) 疝の虫
28	第6節(2) 夜尿症・小児喘息
29	第7節(1) 認知症
30	後期まとめ
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床はりきゅう学VI ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

経絡経穴概論のうち、東洋医学的施術に必要不可欠の要穴についての知識を総合的に整理し、理解を深める。また、社会的ニーズと鍼灸師の役割を理解し、適切な施術や治療院経営ができるように学習する。

2 到達目標

- ・すべての要穴とその部位を覚える。
- ・社会から期待される鍼灸師の役割を理解し、将来の治療院経営をイメージする。

3 授業の方法

教科書、配布プリント、パワーポイントによる講義

4 成績評価方法・基準

小テスト、定期試験で総合的に評価する。（後期の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

要穴は臨床的に重要で、国家試験に頻出されます。繰り返し学び、しっかり暗記していきましょう。

7 使用教材、教具

「新版経絡経穴概論」医道の日本社、「社会あはき学」医道の日本社、配付プリント

8 学生へのメッセージ

担当教員が臨床で経験し、感じたことも交えて、要穴に関する必要な知識や様々な場面で期待される鍼灸師像を伝えます。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (臨床はりきゅう学VI)

回数	授業内容
1	要穴の総合的知識整理 要穴名 (1) 五要穴
2	要穴の総合的知識整理 要穴名 (2) 五行穴
3	要穴の総合的知識整理 要穴名 (3) 背部俞穴
4	要穴の総合的知識整理 要穴名 (4) 募穴
5	要穴の総合的知識整理 要穴名 (5) 四総穴
6	要穴の総合的知識整理 要穴名 (6) 八脈交会穴
7	要穴の総合的知識整理 要穴名 (7) 奇経八脈
8	要穴の総合的知識整理 経穴名 (1) 五要穴
9	要穴の総合的知識整理 経穴名 (2) 五行穴
10	要穴の総合的知識整理 経穴名 (3) 背部俞穴
11	要穴の総合的知識整理 経穴名 (4) 募穴
12	要穴の総合的知識整理 経穴名 (5) 四総穴
13	要穴の総合的知識整理 経穴名 (6) 八脈交会穴
14	要穴の総合的知識整理 経穴名 (7) 奇経八脈
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	要穴の総合的知識整理 部位 (1) 五要穴
18	要穴の総合的知識整理 部位 (2) 五行穴
19	要穴の総合的知識整理 部位 (3) 背部俞穴
20	要穴の総合的知識整理 部位 (4) 募穴
21	要穴の総合的知識整理 部位 (5) 四総穴
22	要穴の総合的知識整理 部位 (6) 八脈交会穴
23	要穴の総合的知識整理 部位 (7) 奇経八脈
24	要穴の総合的知識整理 まとめ
25	施術所の経営展開 (1) 開業をイメージしよう
26	施術所の経営展開 (2) 患者さんが来る鍼灸院
27	施術所の経営展開 (3) 療養費
28	施術所の経営展開 (4) はりきゅう施術助成金
29	施術所の経営展開 (5) 鍼灸師会
30	施術所の経営展開 (6) まとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅶ（東洋医学臨床論Ⅳ） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

2年次までに学習した経絡経穴概論・臨床医学各論・東洋医学臨床論の知識を総合的に整理し、国家試験の過去問題を解きながら、鍼灸師として必要な知識を深める。

2 到達目標

- ・筋・血管・神経など解剖学的な知識で経絡・経穴を選経・選穴できる。
- ・模擬患者によるロールプレイで、鑑別を行い、疾患を特定できる。
- ・上記に関連する国試過去問および類似問題を理解し、解答できる。

3 授業の方法

教科書、配布プリント、パワーポイントによる講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習時は、臨床医学各論の教科書だけではなく、解剖学・生理学・病理学・臨床医学総論の該当ページもよく読み、疾患の特徴を理解できるまで確認すること。

7 使用教材、教具

「新版経絡経穴概論」医道の日本社、「東洋医学臨床論」南江堂
「臨床医学各論」医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

習得した知識を臨床活用するためのトレーニングを行います。担当教員の実体験も交えて、臨床に役に立ち、なおかつ国家試験にも対応できる知識を伝えたいと思います。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (臨床はりきゅう学Ⅶ (東洋医学臨床論Ⅳ))

回数	授業内容
1	経絡経穴の総合的知識整理 (1) 基礎
2	経絡経穴の総合的知識整理 (2) 接続、流注
3	経絡経穴の総合的知識整理 (3) 骨度法
4	経絡経穴の総合的知識整理 (4) 始まりと終わり、要穴
5	経絡経穴の総合的知識整理 (5) 手の三陰三陽経、足の三陰三陽経
6	経絡経穴の総合的知識整理 (6) 胸腹部、腰背部① 表に記入
7	経絡経穴の総合的知識整理 (7) 胸腹部、腰背部② 図に記入 (腰背部)
8	経絡経穴の総合的知識整理 (8) 胸腹部、腰背部③ 図に記入 (胸腹部)
9	経絡経穴の総合的知識整理 (9) 横並び、顔、頭、頸
10	経絡経穴の総合的知識整理 (10) 筋
11	経絡経穴の総合的知識整理 (11) 神経
12	経絡経穴の総合的知識整理 (12) 血管
13	経絡経穴の総合的知識整理 (13) 奇経八脈
14	経絡経穴の総合的知識整理 (14) 現代的研究、奇穴
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	疾患の総合的知識整理 (1) 感染症
18	疾患の総合的知識整理 (2) 消化管疾患
19	疾患の総合的知識整理 (3) 肝胆膵疾患
20	疾患の総合的知識整理 (4) 呼吸器疾患
21	疾患の総合的知識整理 (5) 腎・尿器疾患
22	疾患の総合的知識整理 (6) 内分泌疾患
23	疾患の総合的知識整理 (7) 代謝栄養疾患
24	疾患の総合的知識整理 (8) 整形外科疾患
25	疾患の総合的知識整理 (9) 循環器疾患
26	疾患の総合的知識整理 (10) 血液・造血器疾患
27	疾患の総合的知識整理 (11) 神経疾患
28	疾患の総合的知識整理 (12) リウマチ性疾患・膠原病
29	疾患の総合的知識整理 (13) その他の領域
30	疾患の総合的知識整理 (14) まとめ
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅷ（はりきゅう理論） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

鍼灸の現代西洋医学的な治効機序について理解を深める。
後期については、国家試験に向けての対策を行う。

2 到達目標

鍼灸による治効機序を理解し、国家試験や臨床に応用できるようになる。

3 授業の方法

教科書，配布プリントによる講義

4 成績評価方法・基準

前期と後期それぞれ定期試験を行い、最終的に前期と後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

鍼灸治効機序の理解に必要な解剖学や生理学の神経を復習すること。

7 使用教材，教具

「はりきゅう理論」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

学術的な研究に基づいた鍼灸治効機序を理解することで、より再現性の高い施術につながります。神経をしっかりと復習したうえで、授業に臨みましょう。

9 教員氏名（ 樋口 裕次郎 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (臨床はりきゅう学Ⅷ (はりきゅう理論))

回数	授業内容
1	第8章 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識 (1) 生体の調節
2	第8章 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識 (2) 感覚
3	第8章 鍼灸治効を理解するために必要な基礎知識 (3) 熱傷・体表の反応
4	第9章 鍼灸治効機序 (1) 鍼鎮痛① 全身性鎮痛
5	第9章 鍼灸治効機序 (2) 鍼鎮痛② 脊髄分節性鎮痛・末梢性鎮痛
6	第9章 鍼灸治効機序 (3) 循環系と鍼灸
7	第9章 鍼灸治効機序 (4) 運動系・消化器系・泌尿器系と鍼
8	第9章 鍼灸治効機序 (5) リラクゼーション・生体防御系と鍼灸
9	第10章 鍼灸治効機序と臨床の接点 (1) 刺激部位・刺激入力
10	第10章 鍼灸治効機序と臨床の接点 (2) 鍼灸刺激による治功機序
11	第1章 概論 第2章 鍼の基礎知識 第3章 刺鍼の方式と術式
12	第4章 特殊鍼法 第5章 灸の基礎知識 第6章 灸術の種類
13	第7章 リスク管理 (1) 安全対策の基本・感染対策
14	第7章 リスク管理 (2) 有害事象の種類と対処法
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	リハビリの総合的知識整理 (1) 障害と医療
18	リハビリの総合的知識整理 (2) 障害の評価① 心身機能・身体構造
19	リハビリの総合的知識整理 (3) 障害の評価② 活動・参加
20	リハビリの総合的知識整理 (4) 医学的リハビリテーション
21	リハビリの総合的知識整理 (5) 脳卒中・脊髄損傷
22	リハビリの総合的知識整理 (6) 切断・脳性麻痺
23	リハビリの総合的知識整理 (7) 骨関節疾患・関節リウマチ
24	リハビリの総合的知識整理 (8) 末梢神経障害・パーキンソン病
25	リハビリの総合的知識整理 (9) 呼吸器疾患・心疾患
26	運動学の総合的知識整理 (1) 運動学の基礎
27	運動学の総合的知識整理 (2) 正常歩行と異常歩行
28	はりきゅう理論の総合的知識整理 (1) 鍼灸の基礎知識と術式
29	はりきゅう理論の総合的知識整理 (2) 鍼灸治効機序の基礎知識
30	はりきゅう理論の総合的知識整理 (3) 鍼灸治効機序
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 社会はりきゅう学 ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

社会的ニーズと鍼灸師の役割を理解する。
卒業後に従事する際、適切な評価や施術ができるように学習する。

2 到達目標

社会的ニーズと求められる鍼灸師の役割を
治療院で行う業務を理解し、実行することができる。

3 授業の方法

教科書，配布プリント，パワーポイントによる講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書をもとに授業をすすめます。

7 使用教材，教具

「社会あはき学」医道の日本社，配付プリント

8 学生へのメッセージ

自分になりたい鍼灸師像をイメージするためには，鍼灸師が社会から何を期待されているかを知り，考えることが必要です。担当教員が臨床で経験し，感じたことも交えて，様々な場面で期待される鍼灸師像とそのために必要な知識を伝えます。

9 教員氏名（ 樋口 裕次郎 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (社会はりきゅう学)

回数	授業内容
1	施術所におけるはりきゅう治療 評価法
2	在宅医療でのはりきゅう治療 評価法
3	鍼灸師にできる機能訓練指導
4	高齢者に対する予防的はりきゅう治療 評価法
5	要介護高齢者に対するはりきゅう治療 評価法
6	鍼灸師による子どもの心身の健全な発達への援助 発達の理解
7	子どものスポーツ障害の予防と治療 評価法
8	鍼灸師による女性に特有な症状へのアプローチ① 評価
9	鍼灸師による女性に特有な症状へのアプローチ② 治療
10	ストレスが惹起する症状へのはりきゅう治療 評価
11	産業衛生におけるはりきゅう治療 評価
12	スポーツ傷害におけるはりきゅう治療 競技特性の理解
13	スポーツ傷害におけるはりきゅう治療 評価法
14	QOL 向上に求められるはりきゅう治療 評価法
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう実技Ⅶ ）

学科名 スポーツ鍼灸 科

学年 3 年

1 授業の内容

近年、ニーズが高まる美容鍼灸ならびにマタニティ鍼灸を安全かつ効果のある施術を行うための必要な技術を習得する。

2 到達目標

- ・クライアントに見合った美容鍼のリスク管理を行えるようになる。
- ・顔面部への刺鍼技術を的確に行えるようになる。
- ・妊娠・出産・育児を行うクライアントの健康・環境に見合った対応ができるようになる。
- ・妊娠・出産・育児に伴うマイナートラブルに対し、鍼灸施術の適・不適応の判断や、つわりや骨盤位など鍼灸施術にて効果の高い施術を安全に行えるようになる。

3 授業の方法

講師によるデモンストレーション後、学生同士ペアで実技実習を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%（後期試験を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

技術の習得や上達は経験値の集積によるため、実技練習は授業内にとどまらず、授業内容の復習に勤しんで下さい。

7 使用教材、教具

授業内容に従ってプリントを配布。

8 学生へのメッセージ

これから鍼灸師として社会で活躍する皆さんは老若男女、職業に関係なく様々な方の人生に鍼灸施術を通して触れあう事となります。患者さんに気持ちよく安心して施術を受けていただくためのホスピタリティやコミュニケーションスキルなど、開業鍼灸師としての知恵を授業の中でお伝えします。

9 教員氏名（ 小嶺由美 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (はりきゅう実技Ⅶ)

回数	授業内容
1	オリエンテーション、美容鍼灸概論
2	フェイシャルオイルトリートメント (タオルターバン・オイル塗布)
3	体質別フェイシャルオイルトリートメント 脾タイプ
4	体質別フェイシャルオイルトリートメント 肺タイプ
5	体質別フェイシャルオイルトリートメント 腎タイプ
6	体質別フェイシャルオイルトリートメント 肝タイプ
7	体質別美容鍼灸 脾タイプ (1)
8	体質別美容鍼灸 脾タイプ (2)
9	体質別美容鍼灸 肺タイプ (1)
10	体質別美容鍼灸 肺タイプ (2)
11	体質別美容鍼灸 腎タイプ (1)
12	体質別美容鍼灸 腎タイプ (2)
13	体質別美容鍼灸 肝タイプ (1)
14	体質別美容鍼灸 肝タイプ (2)
15	定期試験
16	試験のフィードバック
17	婦人科・産科基礎医学概論
18	妊娠初期の鍼灸治療①
19	妊娠初期の鍼灸治療②
20	妊娠初期の鍼灸治療③
21	妊娠中期の鍼灸治療①
22	妊娠中期の鍼灸治療②
23	妊娠中期の鍼灸治療③
24	妊娠末期の鍼灸治療①
25	妊娠末期の鍼灸治療②
26	妊娠末期の鍼灸治療③
27	産後の鍼灸治療①
28	産後の鍼灸治療②
29	グループワーク：周産期のクライアント対応①
30	グループワーク：周産期のクライアント対応②
31	定期試験
32	試験のフィードバック

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう実技Ⅷ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

現代医学的な検査、鑑別、施術計画の基本を理解する。

2 到達目標

現代医学に基づいた施術ができるようになる。

3 授業の方法

学生ペアで実技を行う。

4 成績評価方法・基準

前期 レポート 100%

後期 定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

後期試験の点数を最終評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

はりきゅう理論の第9章と第10章を復習すること。

7 使用教材， 教具

「はりきゅう理論 第3版」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

今まで習った現代医学の知識を生かして、患者の主訴に合わせた検査を行い、病態を鑑別することができます。また、明らかになっている鍼灸の治功機序に基づいた施術を行うことで、より再現性の高い効果を出すことができます。現代医学系の科目をしっかり復習して授業に臨んでください。

9 教員氏名（ 山口 侃太 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ はりきゅう実技Ⅷ ）

回数	授業内容
1	徒手検査（1）上半身
2	徒手検査（2）ペア交代
3	徒手検査（3）下半身
4	徒手検査（4）ペア交代
5	相互施術（1）鍼鎮痛
6	相互施術（2）ペア交代
7	相互施術（3）鍼鎮痛
8	相互施術（4）ペア交代
9	相互施術（5）筋緊張の緩和
10	相互施術（6）ペア交代
11	相互施術（7）筋緊張の緩和
12	相互施術（8）ペア交代
13	相互施術（9）内臓機能の調節
14	相互施術（10）ペア交代
15	相互施術（11）内臓機能の調節
16	相互施術（12）ペア交代
17	相互施術（13）リラクゼーション
18	相互施術（14）ペア交代
19	相互施術（15）リラクゼーション
20	相互施術（16）ペア交代
21	古代刺法（1）九刺
22	古代刺法（2）十二刺
23	古代刺法（3）五刺
24	古代刺法（4）三刺
25	十七刺法（1）雀啄術～回旋術
26	十七刺法（2）乱鍼術～刺鍼転向法
27	東洋医学の基礎
28	精・気・血・津液と神の生理
29	蔵象論
30	経絡論
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう臨床実習Ⅳ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

基本的な患者対応や施術所における業務（診察準備，受付業務，患者誘導，施術，手技療法など）を体験し，一部を模倣・実践する。

2 到達目標

- ・態度・習慣 患者に対して適切な対応ができる。
- ・情報収集・記録 医療面接を実施し，SOAP形式で記録できる。
- ・施術へのアプローチ 施術計画を立案し，一部を実践できる。

3 授業の方法

施術所での患者対応を想定して体験型実習を行う。

4 成績評価方法・基準

実習中の提出物，試験をもとに総合的に評価する。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実習記録は1回終了するたびに記入すること。また，実習中にわからないことや疑問に思うことがあれば，質問するなど自ら調べ，記録すること。

7 使用教材，教具

「はりきゅう実技基礎編」医道の日本社

「マンガ 鍼灸臨床インシデント増補改訂版」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

卒業後の施術所勤務または開業を念頭に置いて臨み，将来の鍼灸師像を描く糧にしましょう。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある臨床実習指導者による実務的教育の授業

科目名 (はりきゅう臨床実習Ⅳ)

回数	授業内容
1	施術所の運営および施術の体験・練習 (1)
2	施術所の運営および施術の体験・練習 (1)
3	施術所の運営および施術の体験・練習 (1) 4 5分
4	施術所の運営および施術の体験・練習 (2)
5	施術所の運営および施術の体験・練習 (2)
6	施術所の運営および施術の体験・練習 (2) 4 5分
7	施術所の運営および施術の体験・練習 (3)
8	施術所の運営および施術の体験・練習 (3)
9	施術所の運営および施術の体験・練習 (3) 4 5分
10	施術所の運営および施術の体験・練習 (4)
11	施術所の運営および施術の体験・練習 (4)
12	施術所の運営および施術の体験・練習 (4) 4 5分
13	施術所の運営および施術の体験・練習 (5)
14	施術所の運営および施術の体験・練習 (5)
15	施術所の運営および施術の体験・練習 (5) 4 5分
16	施術所の運営および施術の体験・練習 (6)
17	施術所の運営および施術の体験・練習 (6)
18	施術所の運営および施術の体験・練習 (6) 4 5分
19	施術所の運営および施術の体験・練習 (7)
20	施術所の運営および施術の体験・練習 (7)
21	施術所の運営および施術の体験・練習 (7) 4 5分
22	施術所の運営および施術の体験・練習 (8)
23	施術所の運営および施術の体験・練習 (8)
24	施術所の運営および施術の体験・練習 (8) 4 5分
25	施術所の運営および施術の体験・練習 (9)
26	施術所の運営および施術の体験・練習 (9)
27	施術所の運営および施術の体験・練習 (9) 4 5分

シラバス (授業計画書)

科目名 (総合領域Ⅳ)

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

- ・国家試験に出題される傾向が高い内容を中心に、解剖学・生理学・東洋医学臨床論を総合的に復習する。

2 到達目標

- ・授業内で四択問題を解答し、問題について解説する。

3 授業の方法

- ・出題傾向の理解と、教科書や資料を熟読することを目的とする。
- ・分野の詳細や学習ポイントについて教員が、教科書や資料を使用して解説を行う。

4 成績評価方法・基準

前期と後期それぞれ定期試験を行い、最終的に前期と後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習 (予習・復習等) の具体的内容

解剖学・生理学の神経系、運動器系の内容を復習すること。

7 使用教材, 教具

「解剖学」「生理学」「臨床医学総論 第2版」 医歯薬出版株式会社
「新版 東洋医学臨床論 (はりきゅう編)」 南江堂

8 学生へのメッセージ

問題を繰り返し解答することで、要点を整理し、苦手な分野を克服しましょう。

9 教員氏名 (樋口 裕次郎)

所 属 (ところ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科)

実務経験の詳細 (施術所での実務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (総合領域Ⅳ)

回数	授業内容
1	演習問題 1 解答および解説 運動器系の解剖生理学 ①
2	演習問題 2 解答および解説 運動器系の解剖生理学 ②
3	演習問題 3 解答および解説 運動器系の解剖生理学 ③
4	演習問題 4 解答および解説 神経系の解剖生理学 ①
5	演習問題 5 解答および解説 神経系の解剖生理学 ②
6	演習問題 6 解答および解説 神経系の解剖生理学 ③
7	演習問題 7 解答および解説 神経系の診察 ①
8	演習問題 8 解答および解説 神経系の診察 ②
9	演習問題 9 解答および解説 神経系の診察 ③
10	演習問題 1 0 解答および解説 運動機能の検査 ①
11	演習問題 1 1 解答および解説 運動機能の検査 ②
12	演習問題 1 2 解答および解説 運動機能の検査 ③
13	演習問題 1 3 解答および解説 前期まとめ ①
14	演習問題 1 4 解答および解説 前期まとめ ②
15	定期試験 ※本校教員が試験監督を行い、授業回数にカウントしません
16	答案返却および解説
17	演習問題 1 5 解答および解説 神経疾患 ①
18	演習問題 1 6 解答および解説 神経疾患 ②
19	演習問題 1 7 解答および解説 神経疾患 ③
20	演習問題 1 8 解答および解説 関節疾患 ①
21	演習問題 1 9 解答および解説 関節疾患 ②
22	演習問題 2 0 解答および解説 脊椎疾患 ①
23	演習問題 2 1 解答および解説 脊椎疾患 ②
24	演習問題 2 2 解答および解説 脊髄損傷
25	演習問題 2 3 解答および解説 外傷 ①
26	演習問題 2 4 解答および解説 外傷 ②
27	演習問題 2 5 解答および解説 外傷 ③
28	演習問題 2 6 解答および解説 その他の整形外科疾患
29	演習問題 2 7 解答および解説 後期まとめ ①
30	演習問題 2 8 解答および解説 後期まとめ ②
31	定期試験 ※本校教員が試験監督を行い、授業回数にカウントしません
32	答案返却および解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (総合領域V)

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

これまで学んだ生理学や臨床医学総論の授業の内容から、よくみられる疾患や病態などを問題演習を通して学び、より深く知識と理解を得ることを目的とする。

2 到達目標

鍼灸の治効機序を理解し、症状や検査法から病態把握を行い治療へ繋げることができる。

3 授業の方法

教科書・配布資料を使用し授業を行う。

4 成績評価方法・基準

前期と後期それぞれ定期試験を行い、最終的に前期と後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習 (予習・復習等)

教科書や授業で使用している資料等を予習・復習しておくこと。
授業後には必ず復習をして、知識の定着に努めてください。

7 使用教材, 教具

「臨床医学総論」医歯薬出版

「生理学」医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

患者さんへの施術を行うと、多くの知識が必要であることを実感します。これまでの学習を復習しながら人体の構造を理解し、多方面から推測する力をつけ、疾患、治療の知識を付けましょう。

9 教員氏名 (樋口 裕次郎)

所 属 (ところ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科)

実務経験の詳細 (施術所での実務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (総合領域V)

回数	授業内容
1	総合演習 臨床医学総論 「診察の概要」 「診察の方法」
2	総合演習 臨床医学総論 「生命徴候の診察」
3	総合演習 臨床医学総論 「全身の診察」 ①
4	総合演習 臨床医学総論 「全身の診察」 ②
5	総合演習 臨床医学総論 「局所の診察」 ①
6	総合演習 臨床医学総論 「局所の診察」 ②
7	総合演習 臨床医学総論 「神経系の診察」 ①
8	総合演習 臨床医学総論 「神経系の診察」 ②
9	総合演習 臨床医学総論 「運動機能検査」 ①
10	総合演習 臨床医学総論 「運動機能検査」 ②
11	総合演習 臨床医学総論 「徒手検査法」
12	総合演習 臨床医学総論 「臨床検査法」
13	総合演習 臨床医学総論 「その他の診察」 「治療学」 「臨床心理」
14	総合演習 臨床医学総論 「おもな症状の診察法」
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	総合演習 生理学 「生理学の基礎」
18	総合演習 生理学 「循環」
19	総合演習 生理学 「呼吸」
20	総合演習 生理学 「消化と吸収」
21	総合演習 生理学 「代謝」
22	総合演習 生理学 「体温」
23	総合演習 生理学 「排泄」
24	総合演習 生理学 「内分泌」
25	総合演習 生理学 「生殖・成長・老化」
26	総合演習 生理学 「神経」
27	総合演習 生理学 「筋」
28	総合演習 生理学 「運動」
29	総合演習 生理学 「感覚」
30	総合演習 生理学 「生体防御機構」
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (総合領域VI)

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

筋と経穴を復習することで、東洋医学臨床論の現代医学系の問題への対策を行う。

2 到達目標

- ・筋の作用、起始、停止、支配神経を全て覚える。
- ・筋上に位置する経穴を覚える。

3 授業の方法

- ・筋肉カードを用いて、筋の復習を行う。
- ・経絡経穴概論の教科書を参考に、筋肉カードに経穴を書き込む。

4 成績評価方法・基準

レポート 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

筋と、経穴の取穴部位の復習をして臨んでください。

7 使用教材，教具

「新版 経絡経穴概論」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

東洋医学臨床論の現代医学系の問題は、とても幅広い範囲から出題されます。その中でも筋と経穴についての問題を解けることは、得点につながります。

9 教員氏名 (山口 侃太)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科)

実務経験の詳細 (施術所での実務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 総合領域Ⅵ ）

回数	授業内容
1	筋と経穴（1）上肢
2	筋と経穴（2）下肢
3	筋と経穴（3）体幹
4	筋と経穴（4）上肢
5	筋と経穴（5）下肢
6	筋と経穴（6）体幹
7	筋と経穴（7）上肢
8	筋と経穴（8）下肢
9	筋と経穴（9）体幹
10	筋と経穴（10）上肢
11	筋と経穴（11）下肢
12	筋と経穴（12）体幹
13	筋と経穴（13）上肢
14	筋と経穴（14）下肢
15	筋と経穴（15）体幹
16	筋と経穴（16）上肢
17	筋と経穴（17）下肢
18	レポート作成

シラバス (授業計画書)

科目名 (総合領域VII)

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

鍼灸師として必要な分野である衛生学・公衆衛生学，医療概論，関係法規，解剖学などの理解度を認識し，不足している知識を補うことを目的とする。

2 到達目標

毎回出題する問題の各正答率が6割を超える。

3 授業の方法

国家試験問題，模擬試験問題を中心に講義・解説を行います。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習 (予習・復習等)

教科書や授業で使用している資料等を予習・復習しておくこと。
授業後には，必ず復習し知識の定着に努めてください。

7 使用教材，教具

「衛生学・公衆衛生学」、「医療概論」、「関係法規」、「解剖学」、「経絡経穴概論」
「東洋医学臨床論」 医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

・宮田 純

鍼灸師として臨床を行う際，患者と施術者双方を守るために必要な，実的な知識を確認して卒業後に備えましょう。

・樋口 裕次郎

複数の科目の知識を織り交ぜて考えることができるように学習していきましょう。

9 教員氏名 (宮田 純， 樋口 裕次郎)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科)

実務経験の詳細 (施術所での実務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 総合領域Ⅶ ）

回数	授業内容
1	公衆衛生学 1章「衛生学の意義」, 2章「健康」
2	解剖学・経絡経穴概論 体表指標
3	公衆衛生学 3章「ライフスタイルと健康」
4	解剖学・経絡経穴概論 督脈、任脈、脊柱の解剖
5	公衆衛生学 4章「環境と健康」
6	解剖学・経絡経穴概論 手の三陰経、上肢の解剖
7	公衆衛生学 5章「産業保健」
8	解剖学・経絡経穴概論 手の三陽経、上肢の解剖
9	公衆衛生学 6章「精神保健」
10	解剖学・経絡経穴概論 上肢の徒手検査と関連経穴
11	公衆衛生学 7章「母子保健」
12	解剖学・経絡経穴概論 足の三陰経、下肢～体幹の解剖
13	公衆衛生学 8章「学校保健」
14	解剖学・経絡経穴概論 足の三陽経、下肢～体幹の解剖
15	公衆衛生学 9章「成人・高齢者保健」
16	解剖学・経絡経穴概論 下肢の徒手検査と関連経穴
17	公衆衛生学 10章「感染症とその対策」
18	解剖学・経絡経穴概論 頭頸部、顔面部の経穴と解剖
19	公衆衛生学 11章「消毒法」
20	解剖学・経絡経穴概論 奇穴の解剖
21	公衆衛生学 12章「疫学」, 13章「統計」
22	解剖学・経絡経穴概論・東洋医学臨床論 腰下肢疾患
23	医療概論・関係法規 「現代の医療制度」
24	解剖学・経絡経穴概論・東洋医学臨床論 頸肩腕症候群
25	医療概論・関係法規 「患者の権利・施術者の倫理」
26	解剖学・経絡経穴概論・東洋医学臨床論 肩関節、膝関節疾患
27	医療概論・関係法規 「あはき法」
28	解剖学・経絡経穴概論・東洋医学臨床論 スポーツ障害
29	定期試験
30	定期試験
31	試験解説, 復習
32	試験解説, 復習

シラバス (授業計画書)

科目名 (総合領域Ⅷ)

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

2年生で学んだ病理学、臨床医学総論の知識を、演習問題を中心に復習し、生体の機能構造から疾患を理解し、必要な検査法を正確に行えるよう知識を深める。

2 到達目標

医療従事者として必要な病気についての基礎知識（疾病の種類・原因・形態・機序など）を学習し、人体と疾患の関係性について理解を深める。

3 授業の方法

教科書・配布資料を使用し授業を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

演習問題を課題とすることもあるので、次回授業時までに必ず自学しておくこと。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書・授業資料での予習・復習を行い、国家試験過去問等を解くこと。

7 使用教材，教具

「病理学概論」医歯薬出版

「臨床医学総論」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

2年生で学んだ「病理学」、「臨床医学総論」の内容を、演習問題でよりフォーカスして授業していきます。特に理解が足りていない箇所は訂正ノートを作成して確実に身につけるようにして下さい。

9 教員氏名 (宮田 純)

所 属 (ところ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科)

実務経験の詳細 (施術所での実務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (総合領域Ⅷ)

回数	授業内容
1	総合演習 病理学概論 2章 (疾病について)、3章 (病因)
2	総合演習 病理学概論 4章 (循環障害)、5章 (退行性病変)
3	総合演習 病理学概論 6章 (進行性病変)、7章 (炎症)
4	総合演習 病理学概論 8章 (腫瘍)、9章 (免疫異常・アレルギー)
5	総合演習 病理学概論 10章 (先天性異常)
6	総合演習 病理学概論 全範囲 (1)
7	総合演習 病理学概論 全範囲 (2)
8	総合演習 臨床医学総論 2章 (診察の方法)、3章 (生命兆候)
9	総合演習 臨床医学総論 4章 (全身の診察)、5章 (局所の診察)
10	総合演習 臨床医学総論 6章 (神経系の診察)
11	総合演習 臨床医学総論 7章 (運動機能検査)
12	総合演習 臨床医学総論 8章 (その他の診察)、9章 (臨床検査法)
13	総合演習 臨床医学総論 10章 (おもな症状の診察法)
14	総合演習 臨床医学総論 全範囲
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (総合領域IX)

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 3 年

1 授業の内容

国家試験に向けた問題演習を行い、不足する学力を把握し、補うことを目的とする。

2 到達目標

問題演習を通じて苦手分野を早期に把握し、知識を補充し、国家試験に合格できる力を身につける。

3 授業の方法

- ・ 国家試験と同等の難易度である問題を180問解答する。
- ・ 問題演習の時間は国家試験と同様とする。
- ・ 問題演習後、解説レポートを作成し、面談を行う。

4 成績評価方法・基準

レポート 100%

5 評価の際の特記事項

解説レポートを作成し、期日厳守で提出すること。提出をもって評価を行う。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

事前に対象科目を復習し、準備して臨むこと。また、解説レポートは後日復習をする自分の資料として役に立つように作成すること。

7 使用教材，教具

東洋療法学校協会

8 学生へのメッセージ

国家試験の本番を意識した問題演習は、自分の弱点探しです。自分の弱点を見つけ、一つずつ解決していきましょう。

9 教員氏名 (宮田 純)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科)

実務経験の詳細 (施術所での実務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (総合領域IX)

回数	授業内容
1	第1回 学力向上演習① 問題演習
2	第1回 学力向上演習② 解答
3	第1回 学力向上演習③ 解説
4	第1回 学力向上演習④ 解説レポート作成
5	第2回 学力向上演習① 問題演習
6	第2回 学力向上演習② 解答
7	第2回 学力向上演習③ 解説
8	第2回 学力向上演習④ 解説レポート作成
9	第3回 学力向上演習① 問題演習
10	第3回 学力向上演習② 解答
11	第3回 学力向上演習③ 解説
12	第3回 学力向上演習④ 解説レポート作成
13	第4回 学力向上演習① 問題演習
14	第4回 学力向上演習② 解答
15	第4回 学力向上演習③ 解説
16	第4回 学力向上演習④ 解説レポート作成
17	第5回 学力向上演習① 問題演習
18	第5回 学力向上演習② 解答
19	第5回 学力向上演習③ 解説
20	第5回 学力向上演習④ 解説レポート作成
21	第6回 学力向上演習① 問題演習
22	第6回 学力向上演習② 解答
23	第6回 学力向上演習③ 解説
24	第6回 学力向上演習④ 解説レポート作成
25	第7回 学力向上演習① 問題演習
26	第7回 学力向上演習② 解答
27	第7回 学力向上演習③ 解説
28	第7回 学力向上演習④ 解説レポート作成
29	第8回 学力向上演習① 問題演習
30	第8回 学力向上演習② 解答
31	第8回 学力向上演習③ 解説レポート作成
32	第9回 学力向上演習① 問題演習
33	第9回 学力向上演習② 解答
34	第9回 学力向上演習③ 解説レポート作成
35	第10回 学力向上演習① 問題演習
36	第10回 学力向上演習② 解答
37	第10回 学力向上演習③ 解説レポート作成
38	第11回 学力向上演習① 問題演習
39	第11回 学力向上演習② 解説レポート作成

シラバス (授業計画書)

科目名 (解剖学Ⅱ)

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

- ・各臓器の構造を学習する。
- ・内臓の位置関係や血管分布を確認する。

2 到達目標

- ・脳神経，主要な脊髄神経を覚え，その機能を説明できる。
- ・動脈の名称，主根と分枝を覚え，図示できる。
- ・内臓の構造を理解し，特徴を説明できる。

3 授業の方法

- ・教科書と配布プリントをもとにして，講義を実施する。

4 成績評価方法・基準

前期と後期それぞれ定期試験を行い、最終的に前期と後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書，授業資料での予習・復習を行うこと。

7 使用教材，教具

「解剖学 第2版」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

臓器について深く学習していきます。運動器からは，分野が離れますが，体表と体内の位置関係を考え，人体構造をイメージすることができるように学習しましょう。神経や血管は，国家試験でも細かく問われますので，根気強く暗記しましょう。

9 教員氏名 (樋口 裕次郎)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科)

実務経験の詳細 (施術所での実務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (解剖学Ⅱ)

回数	授業内容
1	神経系 (1) 総論
2	神経系 (2) 中枢神経 大脳
3	神経系 (3) 中枢神経 間脳, 脳幹, 小脳
4	神経系 (4) 中枢神経 脊髄
5	神経系 (5) 末梢神経 脳神経
6	神経系 (6) 末梢神経 脊髄神経①
7	神経系 (7) 末梢神経 脊髄神経②
8	神経系 (8) 末梢神経 自律神経
9	感覚器系 (1) 視覚器
10	感覚器系 (2) 聴覚・平衡覚器, 味覚器, 嗅覚器
11	循環器系 (1) 脈管, 心臓
2	循環器系 (2) 体循環の動脈系①
13	循環器系 (3) 体循環の動脈系②
14	前期まとめ
15	前期試験
16	答案返却および解説
17	循環器系 (4) 体循環の静脈系, 胎児循環
18	循環器系 (5) 胎児循環
19	循環器系 (6) リンパ
20	呼吸器系 (1)
21	消化器系 (1) 口腔, 咽頭, 食道
22	消化器系 (2) 胃, 小腸, 大腸
23	消化器系 (3) 付属腺
24	泌尿器系 (1)
25	生殖器系 (1) 男性生殖器
26	生殖器系 (2) 女性生殖器
27	生殖器系 (3) 受精と発生
28	内分泌系 (1) 内分泌器官
29	内分泌系 (2) 受精と発生
30	後期まとめ
31	後期試験
32	答案返却および解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (生理学Ⅱ)

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

1年生で学習した生理学Ⅰを踏まえ、生命現象（神経、筋、運動、感覚などのメカニズム）を通じて人体の機能について学んでいきます。

2 到達目標

人体の神経系や感覚器の機能を理解し、調和の取れた個体の生命現象を総合的にとらえることができる。

3 授業の方法

配布プリントを中心に、理解を深める補助として画像を用いて講義を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

前期と後期それぞれ定期試験を行い、最終的に前期と後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各章の学習後に小テストを実施します。毎回の復習を心がけてください。

7 使用教材，教具

「生理学」医道の日本社

「生理学インパクト」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

鍼灸治療を行っているとき「どのようなメカニズムで効果がでるのか。」と患者さんに聞かれる場面があります。生理学で人体のメカニズムを学び、そういった質問や疑問に答えられるよう、臨床に役立つ知識を伝えたいと思います。

9 教員氏名 (宮田 純)

所属 (ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科)

実務経験の詳細 (施術所での実務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (生理学Ⅱ)

回数	授業内容
1	第10章 神経 (1) 神経系の分類 ニューロンの構造と働き
2	第10章 神経 (2) 神経線維の興奮伝導
3	第10章 神経 (3) シナプス伝達
4	第10章 神経 (4) 神経伝達物質
5	第10章 神経 (5) 反射
6	第10章 神経 (6) 脊髄
7	第10章 神経 (7) 伝導路
8	第10章 神経 (8) 脳幹
9	第10章 神経 (9) 大脳
10	第10章 神経 (10) 脳脊髄液
11	第10章 神経 (11) 末梢神経の分類 自律神経の概要
12	第10章 神経 (12) 自律神経調節の特徴 (二重支配, 拮抗支配など)
13	第10章 神経 (13) 内臓の自律神経調節 自律神経反射
14	第10章 神経 (14) 神経系のまとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第11章 筋 (1) 骨格筋の構造と働き 筋の収縮の仕組み (興奮収縮連関)
18	第11章 筋 (2) 筋のエネルギー供給の仕組み 心筋と平滑筋について
19	第12章 運動 (1) 骨格筋の神経支配
20	第12章 運動 (2) 運動調節 (伸張反射, その他の脊髄反射)
21	第12章 運動 (3) 運動調節 (脳幹反射, 除脳固縮など)
22	第12章 運動 (4) 錐体路系と錐体外路系 発声と言語
23	第13章 感覚 (1) 感覚の分類と一般的性質
24	第13章 感覚 (2) 体性感覚 (表在感覚, 深部感覚), 伝導路
25	第13章 感覚 (3) 痛覚
26	第13章 感覚 (4) 特殊感覚 (味覚, 嗅覚)
27	第13章 感覚 (5) 特殊感覚 (聴覚, 平衡感覚)
28	第13章 感覚 (6) 特殊感覚 (視覚)
29	第14章 生体の防御機構 (1) 免疫
30	第14章 生体の防御機構 (2) 白血球の働き
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (解剖生理学Ⅱ)

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

- 1 授業の内容
筋を復習する。
- 2 到達目標
筋の作用、起始、停止、支配神経をすべて覚える。
- 3 授業の方法
筋肉カードを用いて筋の復習を行う。
- 4 成績評価方法・基準
定期試験 100%
- 5 評価の際の特記事項
後期試験の点数を最終評価とする。
- 6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容
配布プリントや教科書を用いて、筋の復習を行うこと。
- 7 使用教材，教具
「解剖学 第2版」 医道の日本社
- 8 学生へのメッセージ
筋に関する知識は施術を行ううえでとても大切なので、忘れないように復習を重ねましょう。国家試験における、様々な科目での得点にもつながるはずです。
- 9 教員氏名 (山口 侃太)
所 属 (ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科)
実務経験の詳細 (施術所での実務経験あり)
- 10 特記事項
実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 解剖生理学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	筋肉カード（1）上肢
2	筋肉カード（2）下肢
3	筋肉カード（3）体幹
4	筋肉カード（4）上肢
5	筋肉カード（5）下肢
6	筋肉カード（6）体幹
7	筋肉カード（7）上肢
8	筋肉カード（8）下肢
9	筋肉カード（9）体幹
10	筋肉カード（10）上肢
11	筋肉カード（11）下肢
12	筋肉カード（12）体幹
13	筋肉カード（13）上肢
14	筋肉カード（14）下肢
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	筋肉カード（15）上肢
18	筋肉カード（16）下肢
19	筋肉カード（17）体幹
20	筋肉カード（18）上肢
21	筋肉カード（19）下肢
22	筋肉カード（20）体幹
23	筋肉カード（21）上肢
24	筋肉カード（22）下肢
25	筋肉カード（23）体幹
26	筋肉カード（24）上肢
27	筋肉カード（25）下肢
28	筋肉カード（26）体幹
29	筋肉カード（27）上肢
30	筋肉カード（28）下肢
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (運動学)

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

解剖学, 生理学を発展させ, 人体の運動機能を詳しく学ぶ。

2 到達目標

- ・各関節の機能や具体的な運動例を説明できる。
- ・関節可動域, MMT を説明できる。
- ・肩甲上腕リズム, 膝の終末回旋運動などを各部位の特徴的な運動を説明できる。

3 授業の方法

- ・教科書, 配布資料をもとに講義を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習 (予習・復習等) の具体的内容

講義内容を理解するにあたっては, 解剖学や生理学で学習した内容とのかかわりが深い。講義項目に該当する部分をあらかじめ復習すること。

7 使用教材, 教具

「リハビリテーション医学」, 「解剖学」, 「生理学」 医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

運動学は, 解剖学や生理学の知識を基に, 身体の動きに関して学習していきます。日常生活における身体の動きが, どのようにして行われているのか理解することで評価や施術につながりますので, しっかり学習しましょう。

9 教員氏名 (樋口 裕次郎)

所 属 (ところ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科)

実務経験の詳細 (施術所での実務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (運動学)

回数	授業内容
1	総論 関節の構造と運動, 運動路と感覚
2	姿勢と運動のコントロール (1) 運動学の基礎
3	姿勢と運動のコントロール (2) 重心と重心線, 異常姿勢
4	姿勢と運動のコントロール (3) 脊髄反射, 姿勢反射
5	身体各部の機能 (1) 脊柱
6	身体各部の機能 (2) 胸郭
7	身体各部の機能 (3) 骨盤
8	身体各部の機能 (4) 上肢
9	身体各部の機能 (5) 下肢
10	関節可動域の測定
11	徒手筋力テスト
12	歩行 (1) 歩行周期, 歩行分析
13	歩行 (2) 異常歩行
14	まとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床医学総論 ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

臨床に必要な診察や検査および治療に関する医学的知識と技能について、講義を中心に学習する。

2 到達目標

様々な症状に対する問診・診察・検査・必要な処置の内容を理解して、患者の病態把握につなげることができる。

3 授業の方法

配布プリントを中心に，理解を深める補助として画像や図説を載せた資料を用いて授業を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

前期と後期それぞれ定期試験を行い、最終的に前期と後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各章の学習後に小テストを実施します。毎回の復習を心がけて下さい。

7 使用教材，教具

「臨床医学総論」医歯薬出版

「病気がみえるシリーズ」メディックメディア

8 学生へのメッセージ

私たち鍼灸師は「診断」をすることはできませんが、症状や所見から患者の状態を把握して鑑別診断を行う知識や技術は臨床において重要です。将来、鍼灸師として活躍するためにも正しい知識を身につけて下さい。

9 教員氏名（ 宮田 純 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (臨床医学総論)

回数	授業内容
1	第1章 診察の概要 第2章 診察の方法 (1)
2	第2章 診察の方法 (2)
3	第3章 生命徴候/バイタルサインの診察 (1) 体温, 脈拍
4	第3章 生命徴候/バイタルサインの診察 (2) 血圧
5	第3章 生命徴候/バイタルサインの診察 (3) 呼吸
6	第4章 全身の診察 (1) 顔貌, 精神状態, 言語, 身体計測
7	第4章 全身の診察 (2) 体型・体格, 栄養状態
8	第4章 全身の診察 (3) 姿勢と体位, 歩行
9	第4章 全身の診察 (4) 皮膚, 粘膜, 皮下組織, 爪の状態, リンパ節
10	第5章 局所の診察 (1) 頭部, 顔面, 眼, 鼻, 耳
11	第5章 局所の診察 (2) 口腔, 頸部, 胸部, 乳房
12	第5章 局所の診察 (3) 肺・胸膜, 心臓
13	第5章 局所の診察 (4) 腹部, 背部
14	第5章 局所の診察 (5) 四肢
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第6章 神経系の診察 (1) 感覚の分類, 伝導路について
18	第6章 神経系の診察 (2) 感覚検査法
19	第6章 神経系の診察 (3) 反射検査
20	第6章 神経系の診察 (4) 脳神経系の検査①
21	第6章 神経系の診察 (5) 脳神経系の検査②、髄膜刺激症状検査
22	第7章 運動機能検査 (1) 運動麻痺, 筋肉の異常
23	第7章 運動機能検査 (2) 不随意運動, 協調運動, 起立と歩行
24	第7章 運動機能検査 (3) 関節可動域検査, 徒手筋力検査法, 日常生活動作
25	第7章 運動機能検査 (4) 徒手による整形外科的検査法①
26	第7章 運動機能検査 (5) 徒手による整形外科的検査法②
27	第8章 その他の診察 救急時, 女性, 小児, 高齢者の診察
28	第9章 臨床検査法 (1) 一般検査
29	第9章 臨床検査法 (2) 血液生化学検査, 生理学的検査および画像診断の概要
30	第11章 治療学 第12章 臨床心理
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (臨床医学各論 I)

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

諸疾患について、成因、病態生理、症状、検査、治療を学習する。

2 到達目標

諸疾患の成因、病態生理、主な症状、主な検査、治療法、予後について、キーワードをあげて説明できる。

3 授業の方法

教科書、配布プリント、パワーポイントによる講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100% (後期試験の点数を最終評価とする)

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習 (予習・復習等) の具体的内容

復習時は、臨床医学各論の教科書だけではなく、解剖学・生理学・病理学・臨床医学総論の該当ページもよく読み、疾患の特徴を理解できるまで確認すること。

7 使用教材、教具

「臨床医学各論」医歯薬出版

「病気がみえるシリーズ」メディックメディア

「NHKきょうの健康」NHK出版

8 学生へのメッセージ

患者さんの施術をしていると、多くの病気の知識が必要であることを実感します。病気をすることは、いい鍼灸施術にもつながるという担当教員の実体験も交えて、臨床に役に立ち、なおかつ国家試験にも対応できる知識を伝えたいと思います。

9 教員氏名 (高橋 美如)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科)

実務経験の詳細 (施術所での実務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (臨床医学各論 I)

回数	授業内容
1	第1章 感染症(1) 総論, 細菌感染症
2	第1章 感染症(2) ウイルス感染症, 性感染症, 寄生虫感染症
3	第2章 消化管疾患(1) 口腔疾患, 食道疾患
4	第2章 消化管疾患(2) 胃・十二指腸疾患
5	第2章 消化管疾患(3) 腸疾患, 腹膜疾患
6	第3章 肝・胆・膵疾患(1) 肝臓疾患
7	第3章 肝・胆・膵疾患(2) 胆道疾患, 膵臓疾患
8	第4章 呼吸器疾患(1) 感染性呼吸器疾患, 閉塞性呼吸器疾患
9	第4章 呼吸器疾患(2) 拘束性呼吸器疾患, その他の呼吸器疾患
10	第5章 腎・尿器疾患(1) 原発性糸球体腎炎, 腎不全
11	第5章 腎・尿器疾患(2) 感染症, 腫瘍性疾患, 結石症・尿路閉塞疾患
12	第5章 腎・尿器疾患(3) 前立腺疾患, その他
13	第6章 内分泌疾患(1) 下垂体疾患, 甲状腺疾患
14	第6章 内分泌疾患(2) 副甲状腺疾患, 副腎疾患, 膵内分泌疾患
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第7章 代謝・栄養疾患(1) 糖代謝異常, 脂質代謝異常
18	第7章 代謝・栄養疾患(2) 尿酸代謝異常, その他の代謝異常症
19	第8章 整形外科疾患(1) 総論, 関節疾患
20	第8章 整形外科疾患(2) 骨代謝性疾患・骨腫瘍,
21	第8章 整形外科疾患(3) 筋・腱疾患, 形態異常
22	第8章 整形外科疾患(4) 脊椎疾患, 脊髄損傷
23	第8章 整形外科疾患(5) 外傷
24	第8章 整形外科疾患(6) その他の整形外科疾患
25	第9章 循環器疾患(1) 動脈疾患(および静脈疾患), 血圧異常, 冠動脈疾患
26	第9章 循環器疾患(2) 心臓疾患(心不全, 心臓弁膜症)
27	第9章 循環器疾患(3) 心臓疾患(先天性心疾患, 不整脈, 心筋症, 心筋炎)
28	第10章 血液・造血器疾患(1) 赤血球疾患, 白血球疾患
29	第10章 血液・造血器疾患(2) リンパ網内系疾患, 出血性素因
30	まとめ
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (病理学概論)

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

病気は患者にはもちろん健康人にとっても大きな関心事です。この病理学概論の授業は病気の基本的な概念を理解し、その病気の本態を認識し明らかにする手がかりになるものです。

2 到達目標

医療従事者として必要な病気についての基礎知識（疾病の種類・原因・形態・機序など）を学習し、人体と疾患の関係性について理解を深める。

3 授業の方法

配布プリントを中心に、理解を深める補助として画像を用いて講義を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

前期と後期それぞれ定期試験を行い、最終的に前期と後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各章の学習後に小テストを実施します。毎回の復習を心がけて下さい。

7 使用教材，教具

「病理学概論」医歯薬出版

「病気がみえる」メディックメディア

8 学生へのメッセージ

病理学とは「病気の理屈」を学ぶ教科です。理屈がわかるということは、理解できるということなので、本授業を通して病に対する興味知識を深めていきましょう。

9 教員氏名 (宮田 純)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科)

実務経験の詳細 (施術所での実務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (病理学概論)

回数	授業内容
1	第1章 病理学について
2	第2章 疾病の分類
3	第3章 病因(1) 内因
4	第3章 病因(2) 外因①
5	第3章 病因(3) 外因②
6	第4章 循環障害(1) ヒトの循環系, 充血・うっ血
7	第4章 循環障害(2) 出血, 血栓症, 塞栓症
8	第4章 循環障害(3) 梗塞, 水腫・浮腫・脱水症
9	第4章 循環障害(4) ショック
10	第5章 退行性病変(1) 萎縮
11	第5章 退行性病変(2) 変性
12	第5章 退行性病変(3) 生活習慣病
13	第5章 退行性病変(4) 壊死と死
14	第6章 進行性病変(1) 肥大と増殖
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第6章 進行性病変(2) 創傷治癒
18	第7章 炎症(1) 炎症の一般
19	第7章 炎症(2) 炎症の分類(変質性炎)
20	第7章 炎症(3) 炎症の分類
21	第8章 腫瘍(1) 腫瘍の形態と構造, 腫瘍細胞の特色
22	第8章 腫瘍(2) 腫瘍の発生の諸段階, 腫瘍の生体の及ぼす影響, 発生原因
23	第8章 腫瘍(3) 良性腫瘍
24	第8章 腫瘍(4) 悪性腫瘍
25	第9章 免疫異常・アレルギー(1) 液性免疫と細胞性免疫
26	第9章 免疫異常・アレルギー(2) アレルギーの分類
27	第9章 免疫異常・アレルギー(3) 免疫不全, 自己免疫異常
28	第10章 先天性異常(1) 先天性異常総論
29	第10章 先天性異常(2) 遺伝性疾患
30	第10章 先天性異常(3) 染色体異常
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス(授業計画書)

科目名(リハビリテーション医学)

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の概要

リハビリテーションの概要，障害の評価，治療法について学ぶ。

鍼灸師がリハビリテーションに携わる中で必要となる他業種との共通言語を理解する。

2 到達目標

- ・関節可動域，徒手筋力テストなどの評価法を覚える。
- ・装具，杖の目的・使用方法を覚える。
- ・ICIDHとICFを説明できるようになる。
- ・脊髄損傷の運動レベルと到達ADLの組合せを覚える。

3 授業の方法

資料を配布し，教科書に沿って授業を進めていく。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習

国家試験の過去問を解答し，配布資料，教科書を活用して解説をつくる。

7 使用教材，教具

東洋療法学校協会編「リハビリテーション医学」(第4版) 医歯薬出版

8 学生へのメッセージ

リハビリテーションというと鍼灸師の仕事と関係なさそうですが，病院などでは鍼灸師以外の職種とチームとして患者さんに関わっていきます。チームの中で鍼灸師にできること，他の職種が得意とすることを理解しておくことが，患者さんの回復に反映されます。難しい内容もありますが，積極的に学びましょう。

9 教員氏名 (樋口 裕次郎)

所 属 (ところ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科)

実務経験の詳細 (施術所での実務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名(リハビリテーション医学)

回数	授業内容
1	リハビリテーションの概要
2	医学的リハビリテーションの概要
3	障害の評価
4	リハビリテーション治療
5	脳卒中のリハビリテーション
6	脊髄損傷のリハビリテーション
7	切断のリハビリテーション
8	小児のリハビリテーション
9	呼吸器のリハビリテーション
10	循環器のリハビリテーション
11	運動器のリハビリテーション① 肩関節周囲炎, 変形性関節症
12	運動器のリハビリテーション② 腰痛症, 関節リウマチ, 骨折
13	神経疾患のリハビリテーション① パーキンソン病
14	神経疾患のリハビリテーション② 末梢神経障害
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎はりきゅう学Ⅴ（東洋医学概論Ⅱ） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

症状や所見をもとに、どのように証を立て、どのように施術するのかを学ぶ。

2 到達目標

東洋医学に基づいた施術ができるようになる。

3 授業の方法

教科書・配布プリントで行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

後期試験の点数を最終評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書・配布プリントでの予習・復習を行う。

7 使用教材，教具

「新版 東洋医学概論」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

1年で習ったことを生かして、症状や所見から証を立てることができます。証に対応する治法が分かれば、どうすれば良くなるのかを考えることができます。いよいよ、患者さんを施術するために必要な理論を学ぶことになるので、しっかりと1年の復習をして授業に臨んでください。

9 教員氏名（ 山口 侃太 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (基礎はりきゅう学Ⅴ (東洋医学概論Ⅱ))

回数	授業内容
1	第5章(1)八綱弁証
2	第5章(2)気血津液弁証
3	第5章(3)臟腑弁証
4	第5章(4)臟腑弁証
5	第5章(5)臟腑弁証
6	第5章(6)臟腑弁証
7	第5章(7)臟腑弁証
8	第5章(8)経絡弁証
9	第5章(9)六淫弁証・六経弁証
10	第5章(10)衛気營血弁証・三焦弁証
11	第5章(11)治則
12	第5章(12)治法
13	第5章(13)治療法の概要
14	第5章(14)弁証の進め方
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	配穴のポイント(1)概説
18	配穴のポイント(2)気・血
19	配穴のポイント(3)痰湿・精
20	配穴のポイント(4)安神
21	配穴のポイント(5)寒・熱
22	配穴トレーニング(1)心陽虚
23	配穴トレーニング(2)風寒犯肺
24	配穴トレーニング(3)肝血虚
25	配穴トレーニング(4)痰湿阻肺
26	配穴トレーニング(5)肝脾不和
27	相互施術(1)
28	相互施術(2)ペア交代
29	相互施術(3)まとめ
30	後期まとめ
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎はりきゅう学VI ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

- ・生体物質や臓腑の相互関係を学ぶ。
- ・国家試験の過去問題を使って問題演習を行う。

2 到達目標

- ・五臓の相互関係を理解し、その生理と病理を説明できるようになる。
- ・国家試験の出題傾向を把握し、四択問題に慣れる。

3 授業の方法

教科書・配布プリントで行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

後期試験の点数を最終評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書，配布プリントでの予習・復習，国家試験過去問集での復習を行う。

7 使用教材，教具

「新版 東洋医学概論」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

これまで、生体物質や臓腑の生理と病理について学びました。次のステップは、それぞれの相互関係について理解することです。これができると、患者さんの身体で何が起きているのかを頭の中で整理しながら、次に起こる病態を推測することができるようになります。東洋医学を使って施術するうえでとても重要なスキルなので、この授業で少しでも身につけましょう。

9 教員氏名（ 山口 侃太 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (基礎はりきゅう学VI)

回数	授業内容
1	第5章(1)八綱弁証
2	第5章(2)気血津液弁証
3	第5章(3)臟腑弁証
4	第5章(4)臟腑弁証
5	第5章(5)臟腑弁証
6	第5章(6)臟腑弁証
7	第5章(7)臟腑弁証
8	第5章(8)経絡弁証
9	第5章(9)六淫弁証・六経弁証
10	第5章(10)衛気營血弁証・三焦弁証
11	症状分析(1)気
12	症状分析(2)血
13	症状分析(3)津液
14	症状分析(4)精
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	五臓の復習
18	相互関係(1)気
19	相互関係(2)血
20	相互関係(3)気機
21	相互関係(4)陽
22	相互関係(5)陰
23	相互関係(6)実熱
24	相互関係(7)実寒
25	相互関係(8)陰陽バランス
26	東洋医学の基礎
27	精・気・血・津液と神の生理
28	蔵象論
29	病理・病証
30	治療法
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床はりきゅう学Ⅰ（東洋医学臨床論Ⅰ） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

本授業では実技を交えて、特に西洋医学的な観点から各疾患の鑑別を学習します。また臨床でよく使用する経絡や経穴の取穴や施術方法を確認していきます。

2 到達目標

- ・鍼灸治療の適応・不適応について学び、判断することができる。
- ・主要症候の現代医学的な考え方や治療法を理解し、実践することができる。

3 授業の方法

教科書，配布プリントで授業を行う。主要疾患における現代医学的鍼灸治療を学び，治療穴の取穴・刺鍼・施灸を行う。

4 成績評価方法・基準

小テスト 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業内で学んだ内容について実技を取り入れるため、自宅でも刺鍼と施灸の反復練習は継続して下さい。

7 使用教材，教具

東洋療法学校協会編「東洋医学臨床論」南江堂
「新板 経絡経穴概論」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

1つの症候に対して、西洋医学的にも東洋医学的にも判断できる柔軟性を持つことが重要です。治療院で患者が来院したときに、適切な鍼灸治療ができるような技術と知識を習得してほしいと思います。

9 教員氏名（ 宮田 純 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (臨床はりきゅう学Ⅰ (東洋医学臨床論Ⅰ))

回数	授業内容
1	オリエンテーション 現代医学的治療原則について
2	主要症候に対する鍼灸療法 頭痛 (現代医学的考え方)
3	主要症候に対する鍼灸療法 頭痛に対する鍼灸治療 45分
4	主要症候に対する鍼灸療法 顔面痛 (現代医学的考え方)
5	主要症候に対する鍼灸療法 顔面痛に対する鍼灸治療
6	主要症候に対する鍼灸療法 顔面麻痺 (現代医学的考え方) 45分
7	主要症候に対する鍼灸療法 顔面麻痺に対する鍼灸治療
8	主要症候に対する鍼灸療法 歯痛 (現代医学的考え方)
9	主要症候に対する鍼灸療法 歯痛に対する鍼灸治療 45分
10	主要症候に対する鍼灸療法 眼精疲労 (現代医学的考え方)
11	主要症候に対する鍼灸療法 眼精疲労に対する鍼灸治療
12	主要症候に対する鍼灸療法 鼻汁, 鼻閉 (現代医学的考え方) 45分
13	主要症候に対する鍼灸療法 鼻汁, 鼻閉に対する鍼灸治療
14	主要症候に対する鍼灸療法 脱毛症 (現代医学的考え方)
15	主要症候に対する鍼灸療法 脱毛症に対する鍼灸治療 45分
16	主要症候に対する鍼灸療法 めまい, 耳鳴り, 難聴 (現代医学的考え方)
17	主要症候に対する鍼灸療法 めまい, 耳鳴り, 難聴に対する鍼灸治療
18	主要症候に対する鍼灸療法 咳嗽 (現代医学的考え方) 45分
19	主要症候に対する鍼灸療法 咳嗽と喘息に対する鍼灸治療
20	主要症候に対する鍼灸療法 胸痛 (現代医学的考え方)
21	主要症候に対する鍼灸療法 胸痛に対する鍼灸治療 45分
22	主要症候に対する鍼灸療法 悪心と嘔吐, 腹痛, (現代医学的考え方)
23	主要症候に対する鍼灸療法 悪心と嘔吐, 腹痛, 便秘, 下痢に対する鍼灸治療
24	主要症候に対する鍼灸療法 便秘, 下痢 (現代医学的考え方) 45分
25	主要症候に対する鍼灸療法 便秘, 下痢に対する鍼灸治療
26	主要症候に対する鍼灸療法 気分障害 (現代医学的考え方)
27	主要症候に対する鍼灸療法 気分障害に対する鍼灸治療 45分
28	主要症候に対する鍼灸療法 認知症 (現代医学的考え方)
29	主要症候に対する鍼灸療法 認知症に対する鍼灸治療
30	主要症候に対する鍼灸療法 月経異常 (現代医学的考え方) 45分
31	主要症候に対する鍼灸療法 不妊症 (現代医学的考え方)
32	主要症候に対する鍼灸療法 月経異常, 不妊症に対する鍼灸治療
33	主要症候に対する鍼灸療法 症例に対する相互施術 (1) 45分
34	主要症候に対する鍼灸療法 症例に対する相互施術 (2)
35	主要症候に対する鍼灸療法 症例に対する相互施術 (3)
36	主要症候に対する鍼灸療法 症例に対する相互施術 (4) 45分

シラバス (授業計画書)

科目名 (臨床はりきゅう学Ⅱ)

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

- ・四診を使って所見を集め、寒熱や生体物質の状態を推測する。
- ・臨床検査法の種類と意義について学び、疾患の背景にある病態生理を理解していく。

2 到達目標

- ・病態の推測に必要な所見を集め、体中で何が起きているのかを考えることができる。
- ・臨床検査結果の基準値を参照して、異常の有無を判断できる。

3 授業の方法

座学での講義と実技での検査法の学習。

4 成績評価方法・基準

前期 レポート 100%

後期 定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

最終的に、前期のレポートと後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

- ・教科書、配布資料を読み返し復習を行うこと。

7 使用教材、教具

「新版 東洋医学概論」医道の日本社、「臨床医学総論」医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

- ・正確な病態把握のためには、所見を集めることが大切です。一年生で習ったことを生かして、寒熱や生体物質の状態を考えてみましょう。
- ・医療面接や身体診察に加え、臨床検査結果の数値で客観的な判断もできるよう理解に努めて下さい。

9 教員氏名 (山口 侃太, 宮田 純)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科)

実務経験の詳細 (施術所での実務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (臨床はりきゅう学Ⅱ)

回数	授業内容
1	所見の取り方 (1) 問診
2	所見の取り方 (2) 舌診
3	所見の取り方 (3) 全身の望診
4	所見の取り方 (4) 切経
5	所見の取り方 (5) 腹診
6	所見の取り方 (6) 脈診
7	所見の取り方 (7) まとめ
8	病態把握 (1) 寒熱
9	病態把握 (2) 寒熱 ペア交代
10	病態把握 (3) 生植物質
11	病態把握 (4) 生植物質 ペア交代
12	病態把握 (5) まとめ
13	病態把握 (6) まとめ ペア交代
14	レポート作成
15	フィードバック
16	中医学の治療法
17	一般検査 (尿検査1)
18	一般検査 (尿検査2)
19	一般検査 (便検査)
20	血液検査 (赤血球)
21	血液検査 (白血球)
22	血液検査 (血液凝固機能検査)
23	髄液検査
24	血液生化学検査 (1)
25	血液生化学検査 (2)
26	免疫血清検査
27	腫瘍マーカー
28	生理学的検査
29	画像診断 (1)
30	画像診断 (2)
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう実技Ⅳ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

四診や弁証論治を，学生ペアで実践する。

2 到達目標

- ・患者から正しく所見をとり，記録することができる。
- ・四診で得た所見から証を立て，対応する治法を導いて配穴を定め，安全に刺鍼や施灸ができるようになる。

3 授業の方法

全体への説明後，教員によるデモンストレーションを見学し，学生ペアで実技を行う。

4 成績評価方法・基準

レポート 100%

5 評価の際の特記事項

後期レポートの点数を最終評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書や配布プリントを，自宅での復習教材とし活用する。

7 使用教材，教具

「新版 東洋医学概論」「新版 経絡経穴概論」医道の日本社

「乾くんの教えて！四診・上巻」東洋学術出版社

8 学生へのメッセージ

東洋医学的な施術をするためには，四診と弁証論治の習得が必須です。四診から弁証論治までの流れを実践することで，臨床のイメージが湧き，理論の復習にもなります。教科書と，授業で配布したプリントを熟読しながら授業に臨んでください。

9 教員氏名（ 山口 侃太 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (はりきゅう実技Ⅳ)

回数	授業内容
1	所見の取り方 (1) 問診
2	所見の取り方 (2) 舌診
3	所見の取り方 (3) 全身の望診
4	所見の取り方 (4) 切経
5	所見の取り方 (5) 腹診
6	所見の取り方 (6) 脈診
7	所見の取り方 (7) まとめ
8	四診 (1) 寒熱
9	四診 (2) 寒熱 ペア交代
10	四診 (3) 生理物質
11	四診 (4) 生理物質 ペア交代
12	四診 (5) まとめ
13	四診 (6) まとめ ペア交代
14	レポート作成
15	フィードバック
16	中医学の治療法
17	四診 (7) 臓腑
18	四診 (8) 臓腑 ペア交代
19	補瀉手技 (1) 補法
20	補瀉手技 (2) 瀉法
21	補瀉手技 (3) まとめ
22	配穴トレーニング (1) 腎陰虚
23	配穴トレーニング (2) 肝火上炎
24	配穴トレーニング (3) 脾気虚
25	配穴トレーニング (4) 心血瘀阻
26	配穴トレーニング (5) 肝陽上亢
27	相互施術 (1)
28	相互施術 (2) ペア交代
29	相互施術 (3) まとめ
30	レポート作成
31	フィードバック
32	まとめ

シラバス (授業計画書)

科目名 (はりきゅう実技Ⅴ)

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

前期 鍼灸施術を行うために必要な医療面接技法を習得する。

後期 諸疾患について学び、現代的鍼灸施術の適・不適を見極める力をつける。

2 到達目標

- ・適切な医療面接を行い、病態把握、必要な検査、治療計画を立案できる。
- ・諸疾患の現代的な鍼灸施術の目的を説明したうえで、安全に施術ができる。

3 授業の方法

前期：パワーポイント、配布資料により講義を行い、医療面接と相互実習を行う。

後期：医療面接を行い、疾患に対する施術の実技を行う。

4 成績評価方法・基準

実技試験 100% (後期試験の点数を最終評価とする)

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習 (予習・復習等) の具体的内容

- ・医療面接で聞くべき項目を理解・暗記する。
- ・現代医学的な施術に必要な筋や検査の知識を復習し、実技に臨む。

7 使用教材, 教具

「東洋医学臨床論はりきゅう編」南江堂、「臨床医学各論」「臨床医学総論」医歯薬出版
「筋と骨格の触診術の基本」株式会社マイナビ出版

8 学生へのメッセージ

1年次に習得した知識・技術をもとに、効果的で安全な鍼灸施術を行えるようになっていきましょう。担当教員の実体験も交えて、臨床に役に立ち、なおかつ国家試験にも対応できる知識を伝えたいと思います。

9 教員氏名 (高橋 美如)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科)

実務経験の詳細 (施術所での実務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (はりきゅう実技V)

回数	授業内容
1	医療面接とは, DVD
2	医療面接の流れ
3	医療面接とコミュニケーション
4	医療面接の質問法, 面接技法
5	医療面接の役割と目的, 面接で聞く内容 (7項目, 十問診)
6	相互実習 (1) 医療面接, 現病歴を書く①
7	相互実習 (2) 医療面接, 現病歴を書く②
8	中間チェック, グループワーク①
9	中間チェック, グループワーク②
10	中間チェック, グループワーク③
11	相互実習 (3) 医療面接, 現病歴を書く③
12	相互実習 (4) 医療面接, 現病歴を書く④
13	相互実習 (5) 医療面接, 現病歴を書く⑤
14	相互実習 (6) 試験練習
15	実技試験
16	相互実習 (1) ①現病歴を聞いて書く
17	相互実習 (2) ②推測する疾患・病態, 必要な検査, 追加で聴取すること
18	相互実習 (3) ③検査, ④治療計画
19	中間チェック, グループワーク①
20	中間チェック, グループワーク②
21	中間チェック, グループワーク③
22	相互実習 (4) ①現病歴を聞いて書く
23	相互実習 (5) ②推測する疾患・病態, 必要な検査, 追加で聴取すること
24	相互実習 (6) ③検査, 治療計画
25	相互実習 (7) ペア交代して①②
26	相互実習 (8) ペア交代して③④
27	相互実習 (9) 提出物フィードバック
28	相互実習 (10) ペア交代して①②
29	相互実習 (11) ペア交代して③④
30	相互実習 (12) 提出物フィードバック, 試験練習
31	実技試験
32	試験解説, フィードバック

シラバス (授業計画書)

科目名 (はりきゅう実技VI)

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

- ・体表解剖を学び、正確な触察法を習得する。
- ・低周波鍼通電療法を学び、運動器への刺鍼技術の向上を目指す。

2 到達目標

- ・骨、筋、血管、末梢神経の走行を把握し、正確な触察ができる。
- ・適切な患部の露出、必要なタオルワーク、安全な刺鍼・通電ができる。
- ・目的の筋への通電、施術前後の評価ができる。

3 授業の方法

- ・担当教員は講義とデモンストレーションを行う。
- ・実技に関する留意点については個別指導により細やかな指導を行っていく。
- ・実技後は必ず、担当教員のチェックを受け自身の到達度を確認する。

4 成績評価方法・基準

実技試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業で配布するプリントを自宅での予習・復習教材として活用すること。

7 使用教材，教具

東洋療法学校協会編「解剖学」（第2版）医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

授業の予習や復習を繰り返し、授業中も時間が許される限り、何度も練習してください。

9 教員氏名（ 樋口 裕次郎 ）

所 属（ ところ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (はりきゅう実技VI)

回数	授業内容
1	肩部の触診、可動域検査、刺鍼 (上腕二頭筋・三角筋)
2	肩部の触診、可動域検査、刺鍼 (棘上筋・棘下筋)
3	肩部の触診、可動域検査、刺鍼 (小円筋・大円筋)
4	頸部の触診、可動域検査、刺鍼 (僧帽筋)
5	頸部の触診、可動域検査、刺鍼 (板状筋)
6	腰殿部の触診、可動域検査、刺鍼 (脊柱起立筋・多裂筋)
7	腰殿部の触診、可動域検査、刺鍼 (殿筋群)
8	腰殿部の触診、可動域検査、刺鍼 (大腿筋膜張筋)
9	大腿部の触診、可動域検査、刺鍼 (大腿四頭筋)
10	大腿部の触診、可動域検査、刺鍼 (ハムストリングス)
11	大腿部の触診、可動域検査、刺鍼 (鵞足部)
12	下腿の触診、可動域検査、刺鍼 (下腿三頭筋)
13	下腿の触診、可動域検査、刺鍼 (前脛骨筋)
14	試験前実技練習
15	定期試験 ※本校教員が試験監督を行い、授業回数にカウントしません
16	解説・前期まとめ
17	肩部の触診、可動域検査、パルス (上腕二頭筋・三角筋)
18	肩部の触診、可動域検査、パルス (棘上筋・棘下筋)
19	肩部の触診、可動域検査、パルス (小円筋・大円筋)
20	頸部の触診、可動域検査、パルス (僧帽筋)
21	頸部の触診、可動域検査、パルス (板状筋)
22	腰殿部の触診、可動域検査、パルス (脊柱起立筋・多裂筋)
23	腰殿部の触診、可動域検査、パルス (殿筋群)
24	腰殿部の触診、可動域検査、パルス (大腿筋膜張筋)
25	大腿部の触診、可動域検査、パルス (大腿四頭筋)
26	大腿部の触診、可動域検査、パルス (ハムストリングス)
27	大腿部の触診、可動域検査、パルス (鵞足部)
28	下腿の触診、可動域検査、パルス (下腿三頭筋)
29	下腿の触診、可動域検査、パルス (前脛骨筋)
30	試験前実技練習②
31	定期試験 ※本校教員が試験監督を行い、授業回数にカウントしません
32	解説・後期まとめ

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう臨床実習Ⅱ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

基本的な患者対応や施術所における業務（診察準備，受付業務，患者誘導，施術，手技療法など）を体験する。また経絡や経穴の取穴や施術方法を確認していく。

2 到達目標

- ・態度・習慣 施術所の診療形態を理解し，臨床スタッフとしての行動ができる。
- ・情報収集・記録 見学したことの理解を深めるために自ら調べ，記録できる。
- ・施術へのアプローチ 安全性・清潔操作に配慮できる。使用経穴や部位を把握できる。

3 授業の方法

施術所での患者対応を想定して体験型実習を行う。

4 成績評価方法・基準

実習中の提出物，試験をもとに総合的に評価する。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実習記録は1回終了するたびに記入すること。また，実習中にわからないことや疑問に思うことがあれば，自ら調べ，質問すること。

7 使用教材，教具

「はりきゅう実技基礎編」（医道の日本社）

「新板 経絡経穴概論」（医道の日本社）

8 学生へのメッセージ

卒業後の施術所勤務または開業を念頭に置いて臨み，将来の鍼灸師像を描く糧にしましょう。

9 教員氏名（ 宮田 純 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある臨床実習指導者による実務的教育の授業

科目名 (はりきゅう臨床実習Ⅱ)

回数	授業内容
1	施術所の運営および施術の体験・練習 (1)
2	施術所の運営および施術の体験・練習 (1)
3	施術所の運営および施術の体験・練習 (1) 4 5 分
4	施術所の運営および施術の体験・練習 (2)
5	施術所の運営および施術の体験・練習 (2)
6	施術所の運営および施術の体験・練習 (2) 4 5 分
7	施術所の運営および施術の体験・練習 (3)
8	施術所の運営および施術の体験・練習 (3)
9	施術所の運営および施術の体験・練習 (3) 4 5 分
10	施術所の運営および施術の体験・練習 (4)
11	施術所の運営および施術の体験・練習 (4)
12	施術所の運営および施術の体験・練習 (4) 4 5 分
13	施術所の運営および施術の体験・練習 (5)
14	施術所の運営および施術の体験・練習 (5)
15	施術所の運営および施術の体験・練習 (5) 4 5 分
16	施術所の運営および施術の体験・練習 (6)
17	施術所の運営および施術の体験・練習 (6)
18	施術所の運営および施術の体験・練習 (6) 4 5 分
19	施術所の運営および施術の体験・練習 (7)
20	施術所の運営および施術の体験・練習 (7)
21	施術所の運営および施術の体験・練習 (7) 4 5 分
22	施術所の運営および施術の体験・練習 (8)
23	施術所の運営および施術の体験・練習 (8)
24	施術所の運営および施術の体験・練習 (8) 4 5 分
25	施術所の運営および施術の体験・練習 (9)
26	施術所の運営および施術の体験・練習 (9)
27	施術所の運営および施術の体験・練習 (9) 4 5 分

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう臨床実習Ⅲ ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

臨床実習施設で、基本的な患者対応や施術所における業務（診察準備，受付業務，患者誘導，施術，手技療法など）を見学し，一部を模倣・実践する。

2 到達目標

- ・態度・習慣 患者に対して適切な対応ができる。
- ・情報収集・記録 医療面接を実施し，SOAP形式で記録できる。
- ・施術へのアプローチ 指導者が指示した経穴および部位を触知できる。

3 授業の方法

実際に運営されている施術所で，体験型実習を行う。

4 成績評価方法・基準

実習中の提出物，試験をもとに総合的に評価する。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実習記録は1回終了するたびに記入すること。また，実習中にわからないことや疑問に思うことがあれば，自ら調べ，質問すること。

7 使用教材，教具

「はりきゅう実技基礎編」医道の日本社

「マンガ 鍼灸臨床インシデント増補改訂版」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

将来の施術所勤務または開業を念頭に置いて臨みましょう。また，患者や他職種の方々とも積極的に関わり，将来の鍼灸師像を描く糧にしましょう。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある臨床実習指導者による実務的教育の授業

科目名 (はりきゅう臨床実習Ⅲ)

回数	授業内容
1	施術所の運営および施術の見学・体験・練習 (1)
2	施術所の運営および施術の見学・体験・練習 (1)
3	施術所の運営および施術の見学・体験・練習 (1) 4 5分
4	施術所の運営および施術の見学・体験・練習 (2)
5	施術所の運営および施術の見学・体験・練習 (2)
6	施術所の運営および施術の見学・体験・練習 (2) 4 5分
7	施術所の運営および施術の見学・体験・練習 (3)
8	施術所の運営および施術の見学・体験・練習 (3)
9	施術所の運営および施術の見学・体験・練習 (3) 4 5分
10	施術所の運営および施術の見学・体験・練習 (4)
11	施術所の運営および施術の見学・体験・練習 (4)
12	施術所の運営および施術の見学・体験・練習 (4) 4 5分
13	施術所の運営および施術の見学・体験・練習 (5)
14	施術所の運営および施術の見学・体験・練習 (5)
15	施術所の運営および施術の見学・体験・練習 (5) 4 5分
16	施術所の運営および施術の見学・体験・練習 (6)
17	施術所の運営および施術の見学・体験・練習 (6)
18	施術所の運営および施術の見学・体験・練習 (6) 4 5分
19	施術所の運営および施術の見学・体験・練習 (7)
20	施術所の運営および施術の見学・体験・練習 (7)
21	施術所の運営および施術の見学・体験・練習 (7) 4 5分
22	施術所の運営および施術の見学・体験・練習 (8)
23	施術所の運営および施術の見学・体験・練習 (8)
24	施術所の運営および施術の見学・体験・練習 (8) 4 5分
25	施術所の運営および施術の見学・体験・練習 (9)
26	施術所の運営および施術の見学・体験・練習 (9)
27	施術所の運営および施術の見学・体験・練習 (9) 4 5分

シラバス（授業計画書）

科目名（ 総合領域Ⅱ（病態生理学） ）

学科名 スポーツ鍼灸科

学年 2 年

1 授業の内容

鍼灸師にとって、体のしくみや働きを知り、異常がなぜ起こってどのような症状を引き起こしながら病気になっていくのかを知ることは大変重要である。病態生理学は、病気が引き起こされる機序や経過を理解するための学問であり、鍼灸治療で効果を出せるかどうかの鑑別判断をするために欠かせない知識である。
担当教員の実務経験を基に臨床に必要な病態生理を学んでいく。

2 到達目標

鍼灸臨床にとって必要な主要症候の病態生理を理解し、鍼灸治療の適否を判断できる。

3 授業の方法

教科書、配布プリント、パワーポイントによる講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%（後期の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

復習時は関係科目の教科書や配布資料もよく読み、病態生理のイメージができるまで確認すること。

7 使用教材、教具

「臨床医学各論」「解剖学」「生理学」「病理学」「臨床医学総論」（医歯薬出版株式会社）

8 学生へのメッセージ

病態生理の理解には、関係科目の解剖学や生理学、病理学、臨床医学各論、臨床医学総論の知識が必要です。復習しながら理解を深めていきましょう。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 スポーツ鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (総合領域Ⅱ (病態生理学))

回数	授業内容
1	授業説明
2	感染症の病態生理 (1) 成因と感染経路, 炎症の病態生理
3	感染症の病態生理 (2) 細菌感染症
4	感染症の病態生理 (3) ウイルス感染症
5	感染症の病態生理 (4) 食中毒, 悪心, 嘔吐, 下痢
6	感染症の病態生理 (5) 性感染症
7	感染症の病態生理 (6) まとめ
8	消化管疾患の病態生理 (1) 消化管とは (口腔から肛門まで)
9	消化管疾患の病態生理 (2) 症状 (嘔吐, 腹痛, 吐血, 下血, 下痢, 便秘)
10	消化管疾患の病態生理 (3) 口腔疾患, 食道, 胃・十二指腸疾患
11	消化管疾患の病態生理 (4) 大腸疾患, 腹膜疾患
12	消化管疾患の病態生理 (5) 腹膜疾患
13	肝疾患の病態生理 (1) 肝機能障害と症状
14	肝疾患の病態生理 (2) 肝炎, 肝硬変, 肝癌, 脂肪肝の症状と機序
15	胆道疾患の病態生理 (1) 胆道の機能障害と症状 (黄疸)
16	胆道疾患の病態生理 (2) 胆石, 胆嚢炎, 胆嚢癌, 総胆管癌の症状と機序
17	膵臓疾患の病態生理 (1) 膵臓の機能障害と症状
18	呼吸器疾患の病態生理 (1) 呼吸器の構造と機能
19	呼吸器疾患の病態生理 (2) 感染性呼吸器疾患
20	呼吸器疾患の病態生理 (3) 閉塞性呼吸器疾患
21	呼吸器疾患の病態生理 (4) 拘束性呼吸器疾患
22	腎・尿器疾患の病態生理 (1) 腎・尿器の構造と機能, 尿検査, 血液生化学検査
23	腎・尿器疾患の病態生理 (2) 脱水, 浮腫, カリウム代謝異常
24	腎・尿器疾患の病態生理 (3) 感染症, 腎・尿管結石症と痛み
25	腎・尿器疾患の病態生理 (4) 前立腺肥大症, 前立腺癌
26	内分泌疾患の病態生理 (1) 内分泌の解剖整理
27	内分泌疾患の病態生理 (2) 下垂体疾患, 甲状腺疾患
28	内分泌疾患の病態生理 (3) 副腎疾患, 副甲状腺疾患
29	前期まとめ (1) 感染症, 消化管疾患
30	前期まとめ (2) 肝胆膵疾患, 呼吸器疾患
31	前期まとめ (3) 腎・尿器疾患
32	前期まとめ (4) 内分泌疾患
33	代謝・栄養疾患の病態生理 (1) 糖代謝異常
34	代謝・栄養疾患の病態生理 (2) 脂質代謝異常
35	代謝・栄養疾患の病態生理 (3) 尿酸代謝異常

36	代謝・栄養疾患の病態生理（４）その他の代謝異常
37	整形外科疾患の病態生理（１）関節炎
38	整形外科疾患の病態生理（２）変形性関節症
39	整形外科疾患の病態生理（３）骨代謝性疾患
40	整形外科疾患の病態生理（４）骨腫瘍，筋・腱疾患
41	整形外科疾患の病態生理（５）形態異常
42	整形外科疾患の病態生理（６）脊椎疾患（ヘルニア，分離・すべり症）
43	整形外科疾患の病態生理（７）脊椎疾患（変形性脊椎症，脊柱管狭窄症）
44	整形外科疾患の病態生理（８）脊椎疾患（腰痛，頸椎捻挫）
45	整形外科疾患の病態生理（９）脊髄損傷
46	整形外科疾患の病態生理（１０）骨折，脱臼，捻挫
47	整形外科疾患の病態生理（１１）スポーツ外傷・傷害
48	整形外科疾患の病態生理（１２）胸郭出口症候群，頸肩腕症候群
49	循環器疾患の病態生理（１）動脈および静脈疾患
50	循環器疾患の病態生理（２）血圧異常
51	循環器疾患の病態生理（３）冠動脈疾患
52	循環器疾患の病態生理（４）心不全
53	循環器疾患の病態生理（５）心臓弁膜症
54	循環器疾患の病態生理（６）先天性心疾患
55	循環器疾患の病態生理（７）不整脈
56	循環器疾患の病態生理（８）心筋症
57	血液・造血器疾患の病態生理（１）貧血
58	血液・造血器疾患の病態生理（２）白血病
59	血液・造血器疾患の病態生理（３）悪性リンパ腫
60	血液・造血器疾患の病態生理（４）出血性素因
61	後期まとめ（１）代謝・栄養疾患
62	後期まとめ（２）整形外科疾患
63	後期まとめ（３）循環器疾患
64	後期まとめ（４）血液・造血器疾患

シラバス（授業計画書）

科目名（ スポーツ健康学Ⅳ （コミュニケーション） ）

学科名 鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

臨床心理学に関わる知識と理論を学習し、より良い健康的な心の状態を知り、診断や治療の場面でのコミュニケーション能力の向上をはかる。

2 到達目標

人格の成り立ちや心の問題を考えることで、そのメカニズムを理解し、会話力を使った具体的援助の理論とスキルを身につける。

3 授業の方法

診断や治療における会話場面に必要な基礎理論とスキルを板書に具体的にまとめながら説明していくので、各自こころの動きを感じ理解しながら、ノートに重点を整理し、後で復習できるような参考書的なノート作成を心掛けてほしい。

4 成績評価方法・基準

定期試験、レポート・ノートをもとに総合的に評価する。

5 評価の際の特記事項

ノートが、実際の場面に利用できるように分かりやすくきちんと整理され、これからの心理的問題に対応できるよう参考書的にまとめられているかを評価します。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

下記の参考書などを読み、ノートにまとめた“心に関する理論”を実際の生活場面で使っていく事が、コミュニケーションスキルを身につける早道になります。

7 使用教材，教具

参考図書「こころとかかわる臨床心理（基礎・実際・方法）」第2版
著者 川瀬正裕，松本真理子，松本英夫（ナカニシヤ出版）

8 学生へのメッセージ

自分自身の心の状態を意識し、内なる人間性を感じて、授業内容を理解してほしい。

9 教員氏名（ 苑田 俊明 ）

所 属（ 長崎県・佐賀県教育委員会，長崎県臨床心理士会 ）

10 特記事項

実務経験のある教員による授業科目

科目名 (スポーツ健康学Ⅳ (コミュニケーション))

回数	授業内容
1	心は、どのようになっているのか・自己理解について
2	心の問題への援助と適応について
3	人間を理解するための理論 (人格理論と発達理論)
4	①フロイトの精神分析理論と発達理論的見地
5	②ユングの分析的心理学
6	③ロジャーズの自己理論
7	④マラーとウェニコットの発達理論 ⑤エリクソンの心理社会的発達理論
8	心の問題を抱えた対象を理解する心理アセスメント
9	①情報の収集整理について ②面接のポイント (会話力) ③心理検査
10	心理援助の方法について (いろいろな心理療法)
11	①診断的分類 ②病態水準からの理解
12	事例により心理援助の実際を知る
13	①発達障害 ②不登校 ③神経症 ④心身症 ⑤気分障害など
14	まとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (解剖学 I)

学科名 鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

- ・骨と筋の構造について配布資料を用いて学ぶ。
- ・骨の特徴, 筋の起始停止・支配神経・作用について学ぶ。

2 到達目標

- ・解剖学用語に関して正しく読み書きができる。
- ・骨の名称を全て覚え, 特徴を説明できる。
- ・主要な筋の起始停止・支配神経・作用を説明できる。

3 授業の方法

- ・教科書と配布プリントを使用して, 講義を実施する。

4 成績評価方法・基準

前期と後期それぞれ定期試験を行い、最終的に前期と後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

5 評価の際の特記事項

前期と後期それぞれ定期試験を行い、最終的に前期と後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

6 授業時間外学習 (予習・復習等) の具体的内容

教科書, 授業資料での予習・復習を行うこと。調べて不明な点は質問に来ること。

7 使用教材, 教具

「解剖生理学」 医歯薬出版株式会社

8 学生へのメッセージ

解剖学では, からだの構造を学びます。覚えることが多く, 苦勞するかもしれませんが, 繰り返し学習してください。言葉だけで覚えようとせず, 解剖図と合わせて理解してください。

9 教員氏名 (樋口 裕次郎)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 鍼灸科)

実務経験の詳細 (施術所での実務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (解剖学 I)

回数	授業内容
1	骨格系総論 骨構造の全体像
2	上肢骨 (1) 上肢帯 (上肢帯の骨構造)
3	上肢骨 (2) 自由上肢① (上腕・前腕の骨構造)
4	上肢骨 (3) 自由上肢② (手部の骨構造)
5	下肢骨 (1) 下肢帯 (下肢帯の骨構造)
6	下肢骨 (2) 自由下肢① (大腿・下腿の骨構造)
7	下肢骨 (3) 自由下肢② (足部の骨構造)
8	脊柱の骨構造
9	胸郭の骨構造
10	頭蓋骨 (1) 脳頭蓋の骨構造
11	頭蓋骨 (2) 顔面頭蓋の骨構造
12	上肢の筋 全体像
13	下肢の筋 全体像
14	体幹の筋 全体像
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	筋系 総論
18	上肢の筋 (1) 上肢帯, 上腕屈筋・伸筋
19	上肢の筋 (2) 前腕屈筋
20	上肢の筋 (3) 前腕伸筋
21	下肢の筋 (1) 下肢帯
22	下肢の筋 (2) 大腿伸筋・屈筋・内転筋
23	下肢の筋 (3) 下腿伸筋・屈筋・腓骨筋群
24	体幹の筋 (1) 胸部, 腹部
25	体幹の筋 (2) 背部
26	頭頸部の筋 (1) 表情筋
27	頭頸部の筋 (2) 咀嚼筋, 頸部の筋
28	後期まとめ (1) 上半身の筋
29	後期まとめ (2) 下半身の筋
30	後期まとめ (3) 頭頸部の筋
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (生理学 I)

学科名 鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

本授業では、生命現象（呼吸や循環などのメカニズム）を通じて人体の機能について学んでいきます。

2 到達目標

人体の細胞や器官の機能を理解し、調和の取れた個体の生命現象を総合的にとらえることができる。

3 授業の方法

配布プリントを中心に講義を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

前期と後期それぞれ定期試験を行い、最終的に前期と後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

各章の学習後に小テストを実施します。毎回の復習を心がけてください。

7 使用教材，教具

「生理学」医歯薬出版

「生理学インパクト」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

鍼灸治療を行っているとき「どのようなメカニズムで効果がでるのか。」と患者さんに聞かれる場面があります。生理学で人体のメカニズムを学び、そういった質問や疑問に答えられるよう、臨床に役立つ知識を伝えたいと思います。

9 教員氏名 (宮田 純)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 鍼灸科)

実務経験の詳細 (施術所での実務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (生理学 I)

回数	授業内容
1	第1章 生理学の基礎 (1) 生理機能の特徴, 細胞の構造と機能
2	第1章 生理学の基礎 (2) 解糖系と内呼吸, 体液の組成と働き 物質の移動
3	第2章 循環 血液編 (1) 血液の組成
4	第2章 循環 血液編 (2) 止血の機序 (一次止血, 血液凝固, 線溶系) 血液型
5	第2章 循環 循環編 (1) 心臓血管系 心臓の構造と働き
6	第2章 循環 循環編 (2) 血液循環
7	第2章 循環 循環編 (3) 循環調節 リンパ系
8	第3章 呼吸 (1) 呼吸器について
9	第3章 呼吸 (2) 換気とガス交換について
10	第3章 呼吸 (3) 呼吸運動
11	第4章 消化と吸収 (1) 消化と吸収 消化管の運動
12	第4章 消化と吸収 (2) 消化液
13	第4章 消化と吸収 (3) 吸収 肝臓の働き 摂食の調節
14	第4章 消化と吸収 (4) 消化管ホルモンについて
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第5章 代謝 (1) 栄養素について 代謝について
18	第5章 代謝 (2) 各栄養素の働きと代謝
19	第6章 体温 (1) 体温調節
20	第6章 体温 (2) 体熱の産生と放散 発汗とその調節
21	第7章 排泄 (1) 腎臓の働き
22	第7章 排泄 (2) 腎循環 尿生成
23	第7章 排泄 (3) 腎臓と体液の調節 畜尿と排尿
24	第8章 内分泌 (1) ホルモンの特徴 視床下部と下垂体
25	第8章 内分泌 (2) 視床下部ホルモン, 下垂体ホルモン, 甲状腺ホルモン
26	第8章 内分泌 (3) 副甲状腺ホルモン, 膵臓ホルモン
27	第8章 内分泌 (4) 副腎のホルモン
28	第8章 内分泌 (5) 性ホルモン, その他のホルモン
29	第9章 生殖・成長と老化 (1) 生殖 妊娠 出産
30	第9章 生殖・成長と老化 (2) 成長 老化
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス (授業計画書)

科目名 (解剖生理学 I)

学科名 鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

人体を形作っている各組織がどのように働いているのか、またその組織の働きで人体にどのような影響を及ぼしているのかを学び、人間に起こる生理的な反応を理解する。

2 到達目標

解剖学と生理学を統合して学習し、人体の正常な構造と機能を結び付けて考えることができる。

3 授業の方法

配布資料、プロジェクターによる視聴覚教材の使用。

4 成績評価方法・基準

前期と後期それぞれ定期試験を行い、最終的に前期と後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習 (予習・復習等) の具体的内容

教科書や授業内で配布した資料の復習を行うこと。

7 使用教材, 教具

「解剖学」医歯薬出版, 「生理学」医歯薬出版, 「解剖生理」医歯薬出版
「イラスト解剖学」中外医学社

8 学生へのメッセージ

解剖学と生理学の演習問題を解くことで、より理解が深まります。
覚えることが多く大変ですが、知識を身につけていきましょう。

9 教員氏名 (樋口 裕次郎)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 鍼灸科)

実務経験の詳細 (施術所での実務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (解剖生理学 I)

回数	授業内容
1	人体の構成 (1) 細胞
2	人体の構成 (2) 遺伝子
3	人体の構成 (3) 組織 (上皮組織)
4	人体の構成 (4) 組織 (支持組織)
5	人体の構成 (5) 組織 (筋組織)
6	人体の構成 (6) 組織 (神経組織)
7	人体の構成 (7) 器官・器官系
8	関節の構造 総論
9	上肢骨 (1) 上肢帯の関節構造
10	上肢骨 (2) 自由上肢の関節構造
11	下肢骨 (1) 下肢帯の関節構造
12	下肢骨 (2) 自由下肢の関節構造
13	体幹の骨 (1) 脊柱の関節構造
14	体幹の骨 (2) 胸郭の関節構造
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	運動器の解剖生理学 (1) 肩関節の構造と機能
18	運動器の解剖生理学 (2) 肘関節の構造と機能
19	運動器の解剖生理学 (3) 手関節の構造と機能
20	運動器の解剖生理学 (4) 股関節の構造と機能
21	運動器の解剖生理学 (5) 膝関節の構造と機能
22	運動器の解剖生理学 (6) 足関節の構造と機能
23	運動器の解剖生理学 (7) 脊柱の構造と機能
24	運動器の解剖生理学 (8) 骨盤の構造と機能
25	運動器の解剖生理学 (9) 上肢の筋
26	運動器の解剖生理学 (10) 体幹の筋
27	運動器の解剖生理学 (11) 下肢の筋
28	運動器の解剖生理学 (12) 頸部の筋
29	運動器の解剖生理学 (13) 顔面の筋
30	運動器の解剖生理学 (14) まとめ
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 衛生学・公衆衛生学 ）

学科名 鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

予防医学，環境改善，生活水準の保障，健康教育，精神保健，産業保健，感染症などを学習する

2 到達目標

衛生学・公衆衛生学の分野に関して，集団の健康と疾病予防，疫学と保健対策等について基本的知識を習得する。

3 授業の方法

配布プリントを中心に講義を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

各単元終了後に小テストを行いますので，配布資料の復習をしてください。

7 使用教材，教具

「シンプル衛生公衆衛生学」南江堂

「公衆衛生学がみえる」メディックメディア

8 学生へのメッセージ

衛生学は疾病予防と健康の保持・増進のための学習であり，この知識は個人だけでなく自身を取り巻く集団の健康にとっても重要なものとなります。医療従事者として関心を持って授業に取り組んでください。

9 教員氏名（ 宮田 純 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (衛生学・公衆衛生学)

回数	授業内容
1	公衆衛生学序論
2	疾病予防と健康管理
3	地域保健と保健行政
4	ライフスタイルと健康
5	環境保健
6	産業保健
7	精神保健
8	母子保健
9	学校保健
10	成人・高齢者保健
11	感染症とその対策
12	消毒法
13	疫学
14	保健統計
15	定期試験
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎はりきゅう学Ⅰ（東洋医学概論Ⅰ） ）

学科名 鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

- ・人体のしくみについて、東洋医学ではどのように考えられているのかを学ぶ。
- ・臨床における、東洋医学特有の所見の集め方について学ぶ。

2 到達目標

- ・人体を構成している生体物質や臓腑の働きを理解する。
- ・所見を集める手法（四診）を学び、その意義について説明できるようになる。

3 授業の方法

教科書，配布プリントで行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

後期試験の点数を最終評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書・配布プリントでの予習・復習，国家試験過去問集での復習を行うこと。

7 使用教材，教具

「新版 東洋医学概論」医道の日本社

「乾くんの教えて！四診・上巻」東洋学術出版社

8 学生へのメッセージ

東洋医学は、昔から積み上げられてきた臨床経験をもとに体系化された医学です。科学がない時代に、人間の身体についてどのように考えられていたのか、どのように病を治していたのか。当時の生活を想像しながら学びましょう。

9 教員氏名（ 山口 侃太 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (基礎はりきゅう学 I (東洋医学概論))

回数	授業内容
1	第1章 東洋医学の特徴
2	第2章 (1) 精・気
3	第2章 (2) 血・津液
4	第2章 (3) 神
5	第2章 (4) 人体における陰陽
6	第2章 (5) 肝系統
7	第2章 (6) 心系統
8	第2章 (7) 脾系統
9	第2章 (8) 肺系統
10	第2章 (9) 腎系統
11	第2章 (10) 五臓の相互関係
12	第2章 (11) 六腑の協調関係
13	第2章 (12) 全身の気機
14	第2章 (13) 経絡
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第2章 (14) 外感病因
18	第2章 (15) 内傷病因
19	第2章 (16) 伝変と波及
20	第2章 (17) 内生五邪
21	第3章 (1) 陰陽学説
22	第3章 (2) 五行学説
23	第4章 (1) 望診
24	第4章 (2) 聞診
25	第4章 (3) 問診の進め方
26	第4章 (4) 主訴
27	第4章 (5) 基本的問診事項
28	第4章 (6) その他の問診事項
29	第4章 (7) 反応・腹診
30	第4章 (8) 脈診
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎はりきゅう学Ⅱ（歴史） ）

学科名 鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

自然や人体についての、東洋医学的な捉え方を学ぶ。

2 到達目標

- ・生理物質や臓腑の働きを全て覚える。
- ・五行色体表を全て覚える。

3 授業の方法

教科書，配布プリントで行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

後期試験の点数を最終評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

教科書・配布プリントでの予習・復習，国家試験過去問集での復習を行うこと。

7 使用教材，教具

「新版 東洋医学概論」医道の日本社

「乾くんの教えて！四診・上巻」東洋学術出版社

8 学生へのメッセージ

東洋医学は，自然と人間との関わりを大切にしています。物事を二つに分ける陰陽，五つに分ける五行を知り，それを医学にどう生かしてきたのかを学びましょう。人間が自然から受ける影響，病の種類，表れる症状について理解し，東洋医学の眼で患者さんを診られるようになりましょう。

9 教員氏名（ 山口 侃太 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 基礎はりきゅう学Ⅱ（歴史） ）

回数	授業内容
1	第1章 東洋医学の特徴
2	第2章（1）精・気
3	第2章（2）血・津液
4	第2章（3）神
5	第2章（4）人体における陰陽
6	第2章（5）肝系統
7	第2章（6）心系統
8	第2章（7）脾系統
9	第2章（8）肺系統
10	第2章（9）腎系統
11	第2章（10）五臓の相互関係
12	第2章（11）六腑の協調関係
13	第2章（12）全身の気機
14	第2章（13）経絡
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	第2章（14）外感病因
18	第2章（15）内傷病因
19	第2章（16）伝変と波及
20	第2章（17）内生五邪
21	第3章（1）陰陽学説
22	第3章（2）五行学説
23	第4章（1）望診
24	第4章（2）聞診
25	第4章（3）問診の進め方
26	第4章（4）主訴
27	第4章（5）基本的問診事項
28	第4章（6）その他の問診事項
29	第4章（7）反応・腹診
30	第4章（8）脈診
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎はりきゅう学Ⅲ（経絡経穴概論） ）

学科名 鍼灸科

学年 1年

1 授業の内容

鍼灸師として必須の知識である経絡経穴について学習する。

2 到達目標

- ・経絡系統の分類，骨度法を言える。
- ・十四経脈の経穴を書けて，言えて，取穴部位を指さすことができる。
- ・十四経脈の走行を書ける。

3 授業の方法

教科書，配布プリント，パワーポイントによる講義と取穴練習

4 成績評価方法・基準

口頭試問 100%（後期の点数を最終評価とする）

口頭試問不合格の場合は定期試験期間中に筆記試験を行う。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

経絡経穴は毎日勉強することが習得の近道です。毎日短時間でも集中し，隙間時間と視覚・聴覚を有効に使って学習しましょう。

7 使用教材，教具

「新版経絡経穴概論第2版」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

まずはすべての経絡・経穴を頭に入れていきましょう。1年間で覚えきる覚悟で臨んでください。また，担当教員の実体験も交えて，臨床に役に立ち，なおかつ国家試験にも対応できる知識を伝えたいと思います。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (基礎はりきゅう学Ⅲ (経絡経穴概論))

回数	授業内容
1	授業説明, 経絡・経穴とは
2	経絡・経穴の基礎 (骨度法, 体標指標, 要穴の概略)
3	督脈 解説
4	督脈 取穴練習
5	任脈 解説
6	任脈 取穴練習
7	手の太陰肺経 解説・取穴練習
8	手の陽明大腸経 解説・取穴練習
9	足の陽明胃経① 解説・取穴練習 (承泣～気衝)
10	足の陽明胃経② 解説・取穴練習 (髀関～厲兌)
11	足の太陰脾経 解説・取穴練習
12	手の少陰心経 解説・取穴練習
13	手の太陽小腸経 解説・取穴練習
14	前期まとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	足の太陽膀胱経① 解説・取穴練習
18	足の太陽膀胱経② 解説・取穴練習
19	足の太陽膀胱経③ 解説・取穴練習
20	足の少陰腎経 解説・取穴練習
21	手の厥陰心包経 解説・取穴練習
22	手の少陽三焦経 解説・取穴練習
23	足の少陽胆経① 解説・取穴練習 (瞳子髎～風池)
24	足の少陽胆経② 解説・取穴練習 (肩井～足竅陰)
25	足の少陽胆経③ 解説・取穴練習
26	足の厥陰肝経 解説・取穴練習
27	奇穴① 頭頸部・胸腹部・背部
28	奇穴② 上肢・下肢
29	奇経八脈
30	現代的研究
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎はりきゅう学Ⅳ ）

学科名 鍼灸科

学年 1年

1 授業の内容

鍼灸師として必須の知識である経絡経穴を学習する。基礎はりきゅう学Ⅲ（経絡経穴概論）と連動する科目として行う。

2 到達目標

経絡経穴の基礎，十四経脈，要穴を理解し，書ける。

3 授業の方法

教科書，配布プリント，パワーポイントによる講義

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%（後期試験の点数を最終評価とする）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

毎日，教科書や要穴表を見て，習得できているか確かめる。

7 使用教材，教具

「新版経絡経穴概論第2版」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

経絡・経穴を1年間で覚えきる覚悟で臨んでください。声に出しながら，自分や知人の身体で取穴練習すると暗記しやすいです。また，担当教員の実体験も交えて，臨床に役に立ち，なおかつ国家試験にも対応できる知識を伝えたいと思います。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (基礎はりきゅう学Ⅳ)

回数	授業内容
1	授業説明, 教科書を見やすくする
2	国家試験について, 過去問配布・解説 (基礎・接続・流注)
3	督脈 経穴確認プリント
4	督脈 指さし呼称
5	任脈 経穴確認プリント
6	任脈 指さし呼称
7	手の太陰肺経 経穴確認プリント
8	手の陽明大腸経 経穴確認プリント
9	足の陽明胃経① 経穴確認プリント (承泣～気衝)
10	足の陽明胃経② 経穴確認プリント (髀関～厲兌)
11	足の太陰脾経 経穴確認プリント
12	手の少陰心経 経穴確認プリント
13	手の太陽小腸経 経穴確認プリント
14	前期まとめ
15	定期試験
16	答案返却および解説
17	足の太陽膀胱経① 経穴確認プリント
18	足の太陽膀胱経② 経穴確認プリント, 横並び説明
19	足の少陰腎経 経穴確認プリント
20	手の厥陰心包経 経穴確認プリント
21	手の少陽三焦経 経穴確認プリント
22	足の少陽胆経 経穴確認プリント
23	足の厥陰肝経 経穴確認プリント
24	経穴カルタ① (要穴) 肺経・大腸経
25	経穴カルタ② (要穴) 胃経・脾経
26	経穴カルタ③ (要穴) 心経・小腸経
27	経穴カルタ④ (要穴) 膀胱経・腎経
28	経穴カルタ⑤ (要穴) 心包経・三焦経
29	経穴カルタ⑥ (要穴) 胆経・肝経
30	要穴まとめ
31	定期試験
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう実技Ⅰ ）

学科名 鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

経穴（あるいは目的とした筋）に対して、適切な消毒、刺鍼、抜鍼までの操作が安全にできるようになることを目的とする。

2 到達目標

- ・治療家として必要な衛生観念を養い清潔感のある身だしなみを整えることができる。
- ・刺鍼動作を適切に行い、指定した角度と目的の深さに安全に鍼を刺入できる。

3 授業の方法

担当教員の実務経験をもとに、実務に必要な技術・知識の習得を促す。実技室にて、ディスプレイブルステンレス鍼を用いて実技を行う。課題となる経穴に指定された角度、深度に刺入する。

4 成績評価方法・基準

実技試験 100%

5 評価の際の特記事項

前期と後期それぞれ実技試験を行い、最終的に前期と後期の実技試験の平均点を成績評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

指定された実技課題ができるようになるまで、授業外で繰り返し練習をすること。

7 使用教材、教具

「はりきゅう実技 基礎編」医道の日本社、
「新版 経絡経穴概論第2版」医道の日本社
セイリン ディスポーザブルステンレス鍼各種

8 学生へのメッセージ

鍼の刺鍼技術を獲得するには反復練習が大切です。刺鍼練習器を使って自宅でも積極的に練習して下さい。

9 教員氏名（ 宮田 純 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (はりきゅう実技 I)

回数	授業内容
1	オリエンテーション、衛生管理（手洗い、消毒について）
2	鍼の種類と刺法について、施術における体位とタオルワーク
3	前揉法と後揉法 片手挿管（1）
4	押し手と刺し手 片手挿管（2）
5	弾入と切皮 片手挿管（3）
6	片手挿管の確認
7	刺鍼練習器に対する送りこみ刺法（1）直刺
8	刺鍼練習器に対する送りこみ刺法（2）斜刺
9	刺鍼練習器に対する送りこみ刺法（3）横刺
10	送り込み刺法の確認
11	刺鍼中の手技
12	下肢の自己刺鍼（1）
13	下肢の自己刺鍼（2）
14	下肢の自己刺鍼（3）
15	実技試験
16	実技試験のフィードバック
17	下腿外側部の刺鍼
18	下腿内側部の刺鍼
19	前腕外側部の刺鍼
20	前腕前面部の刺鍼
21	腰部の刺鍼
22	背部の刺鍼
23	肩甲部の刺鍼
24	肩背部の刺鍼
25	頭頂部・後頸部の刺鍼
26	腹部の刺鍼
27	前胸部・肩部の刺鍼
28	側頸部の刺鍼
29	臀部・股関節部の刺鍼
30	頭・顔面部の刺鍼
31	実技試験
32	実技試験のフィードバック

シラバス (授業計画書)

科目名 (はりきゅう実技Ⅱ)

学科名 鍼灸科

学年 1年

1 授業の内容

- ・施灸の基礎技術および患者対応の基本を学び修得する。
- ・施灸の基本動作を繰り返し練習し、安全かつスムーズな施灸を目指す。

2 到達目標

- ・板上施灸で、前期は3分間20壮、後期は3分間30壮できる。
- ・対人施灸で、指定経穴に施灸し、部位を答えられる。
- ・施術者として相手への気遣いおよび自己管理ができる。

3 授業の方法

- ・担当教員の実務経験を基に、基礎技術および知識の習得を促す。そのため、実技室を鍼灸院と想定して実施する。相手を患者として、声掛けやタオルワーク、施灸を行う。
- ・施灸は板上から始めて、自分、対人と段階的に進行し、実際の施術に近づけていく。

4 成績評価方法・基準

実技試験 100% (後期試験の点数を最終評価とする)

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習 (予習・復習等) の具体的内容

技能の向上のために、自主トレーニングを積み、授業に臨むこと。

7 使用教材, 教具

「はりきゅう実技基礎編」, 「新版経絡経穴概論」 (医道の日本社)

8 学生へのメッセージ

臨床でお灸を希望する患者さんはたくさんいらっしゃいます。まずは施灸の基礎技術を習得し、あわせて臨床で役に立つ灸法を実践できるようになっていきましょう。

9 教員氏名 (高橋 美如)

所 属 (ころ医療福祉専門学校 鍼灸科)

実務経験の詳細 (施術所での実務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (はりきゅう実技Ⅱ)

回数	授業内容
1	授業説明, 実技道具の配布, お灸って何?
2	道具の準備, 板の線引き, 艾を立ててみよう, 艾のひねり方, 爪の整え方
3	線香の持ち方, 点火, 灰のはらい方
4	実技室の使い方, 実技受講のルール, 板上施灸の仕方
5	板上施灸(1) 練習の仕方
6	板上施灸(2) 時間を測る
7	板上施灸(3) 中間チェック
8	自己施灸(1) 知熱灸(知熱灸とは, 合谷, 手三里, 陽溪, 曲池, 尺沢)
9	自己施灸(2) 知熱灸(合谷, 手三里, 陽溪, 曲池, 尺沢)
10	自己施灸(3) 知熱灸(足三里, 犢鼻, 解溪, 陰陵泉, 三陰交, 血海, 太衝)
11	自己施灸(4) 知熱灸 上肢・下肢
12	自己施灸(5) 知熱灸 2人組
13	自己施灸(6) 知熱灸 3人組
14	自己施灸(7) 知熱灸 試験練習
15	実技試験
16	実技試験フィードバック
17	対人施灸(1) 施術の準備, 背部の体表指標
18	対人施灸(2) 背部の体表指標, 督脈取穴
19	対人施灸(3) 胃の六つ灸取穴
20	対人施灸(4) 胃の六つ灸施灸
21	対人施灸(5) 背部俞穴取穴
22	対人施灸(6) 背部俞穴施灸 知熱灸
23	対人施灸(7) 背部俞穴施灸 透熱灸
24	対人施灸(8) 募穴診
25	対人施灸(9) 募穴診, 背部俞穴
26	対人施灸(10) 募穴診, 背部俞穴, 生姜灸
27	対人施灸(11) 募穴診, 背部俞穴, 塩灸
28	対人施灸(12) 試験練習
29	艾作成(1) よもぎ茎とり, 手もみ
30	艾作成(2) 低精製艾, 高精製艾
31	実技試験
32	実技試験フィードバック

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう実技Ⅲ（臨床実習前施術実技試験） ）

学科名 鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

- ・臨床実習の事前準備として、施術所を想定した患者対応・手技療法・取穴・刺鍼・灸練習を繰り返し行い、安全に施術するたまたの基礎技術を身につける。
- ・患者と良好な関係を構築するために、医療従事者としての基本的な態度を学ぶ。

2 到達目標

- ・臨床現場を想定した準備，言葉遣い，患者誘導，タオルワークができる。
- ・前期で得た知識・技術をもとに，的確で安全な取穴・刺鍼・施灸が素早くできる。
- ・手技療法の基本ができる。

3 授業の方法

実技を中心に，座学やグループワークも行います。

4 成績評価方法・基準

小テスト 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

その日学習した内容を復習すること。

7 使用教材，教具

「新版経絡経穴概論」医道の日本社

「はりきゅう実技基礎編」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

臨床現場を意識して，実際の患者対応を念頭において取り組みましょう。

9 教員氏名（ 樋口 裕次郎 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (はりきゅう実技Ⅲ (臨床実習前施術実技試験))

回数	授業内容
1	上肢帯・自由上肢 骨の触診 (前面)
2	上肢帯・自由上肢 筋の触診 (前面)
3	上肢帯・自由上肢 手の太陰肺経・手の少陰神経の取穴 4 5分
4	上肢帯・自由上肢 骨の触診 (後面)
5	上肢帯・自由上肢 筋の触診 (後面)
6	上肢帯・自由上肢 手の陽明大腸経・手の太陽小腸経の取穴 4 5分
7	下肢帯・自由下肢骨 骨の触診 (前面)
8	下肢帯・自由下肢骨 筋の触診 (前面)
9	下肢帯・自由下肢骨 足の太陰脾経・足の陽明胃経の取穴 4 5分
10	下肢帯・自由下肢骨 骨の触診 (後面)
11	下肢帯・自由下肢骨 筋の触診 (後面)
12	下肢帯・自由下肢骨 足の太陰脾経の取穴 4 5分
13	体幹 骨の触診 (後面)
14	体幹 筋の触診 (後面)
15	体幹 督脈の取穴 4 5分
16	体幹 骨の触診 (前面)
17	体幹 筋の触診 (前面)
18	体幹 任脈・足の陽明胃経の取穴 4 5分
19	上肢帯・自由上肢 骨の触診 (前面) まとめ①
20	上肢帯・自由上肢 筋の触診 (前面) まとめ②
21	上肢帯・自由上肢 取穴 まとめ③ 4 5分
22	上肢帯・自由上肢 骨の触診 (後面) まとめ①
23	上肢帯・自由上肢 筋の触診 (後面) まとめ②
24	上肢帯・自由上肢 取穴 まとめ③ 4 5分
25	下肢帯・自由下肢骨 骨の触診 (前面) まとめ①
26	下肢帯・自由下肢骨 筋の触診 (前面) まとめ②
27	下肢帯・自由下肢骨 取穴 まとめ③ 4 5分
28	下肢帯・自由下肢骨 骨の触診 (後面) まとめ①
29	下肢帯・自由下肢骨 筋の触診 (後面) まとめ②
30	下肢帯・自由下肢骨 取穴 まとめ③ 4 5分
31	体幹 骨の触診 (後面) まとめ①
32	体幹 筋の触診 (後面) まとめ②
33	体幹 取穴 まとめ③ 4 5分
34	体幹 骨の触診 (前面) まとめ①
35	体幹 筋の触診 (前面) まとめ②
36	体幹 取穴 まとめ③ 4 5分

シラバス（授業計画書）

科目名（ はりきゅう臨床実習Ⅰ ）

学科名 鍼灸科

学年 1年

1 授業の内容

基本的な患者対応や施術所における業務を体験する。

2 到達目標

- ・施術者としてのマナーを身につけ、自己管理ができる。
- ・クラスメートとコミュニケーションをとり、協力的な働きかけができる。
- ・施術に必要な筋の名前、部位を覚えて、触診ができる。
- ・施術に必要な十四経脈の走行を覚えて、取穴ができる。

3 授業の方法

施術所での患者対応を想定して体験型実習を行う。

4 成績評価方法・基準

実習中の提出物、試験をもとに総合的に評価する。

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実習中にわからないことや疑問に思うことがあれば、自ら調べ、質問すること。

7 使用教材，教具

「筋と骨格の触診術の基本」株式会社マイナビ出版

「新版経絡経穴概論第2版」医道の日本社

8 学生へのメッセージ

卒業後の施術所勤務または開業を念頭に置いて臨み、将来の鍼灸師像を描く糧にしましょう。

9 教員氏名（ 高橋 美如 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (はりきゅう臨床実習 I)

回数	授業内容
1	施術所の運営および施術の体験・練習 (1)
2	施術所の運営および施術の体験・練習 (1)
3	施術所の運営および施術の体験・練習 (1) 4 5分
4	施術所の運営および施術の体験・練習 (2)
5	施術所の運営および施術の体験・練習 (2)
6	施術所の運営および施術の体験・練習 (2) 4 5分
7	施術所の運営および施術の体験・練習 (3)
8	施術所の運営および施術の体験・練習 (3)
9	施術所の運営および施術の体験・練習 (3) 4 5分
10	施術所の運営および施術の体験・練習 (4)
11	施術所の運営および施術の体験・練習 (4)
12	施術所の運営および施術の体験・練習 (4) 4 5分
13	施術所の運営および施術の体験・練習 (5)
14	施術所の運営および施術の体験・練習 (5)
15	施術所の運営および施術の体験・練習 (5) 4 5分
16	施術所の運営および施術の体験・練習 (6)
17	施術所の運営および施術の体験・練習 (6)
18	施術所の運営および施術の体験・練習 (6) 4 5分
19	施術所の運営および施術の体験・練習 (7)
20	施術所の運営および施術の体験・練習 (7)
21	施術所の運営および施術の体験・練習 (7) 4 5分
22	施術所の運営および施術の体験・練習 (8)
23	施術所の運営および施術の体験・練習 (8)
24	施術所の運営および施術の体験・練習 (8) 4 5分
25	施術所の運営および施術の体験・練習 (9)
26	施術所の運営および施術の体験・練習 (9)
27	施術所の運営および施術の体験・練習 (9) 4 5分

シラバス（授業計画書）

科目名（ 総合領域 I（生体観察） ）

学科名 鍼灸科

学年 1 年

1 授業の内容

人体の機能に関する理解や、医療従事者としての衛生観念を深めるため、「生理学」、「衛生学・公衆衛生学」の知識の補填を行う。

2 到達目標

- ・人体の循環、呼吸、消化、体温、排泄、内分泌の調節機能について理解する。
- ・疾病予防や健康の保持・増進について公衆衛生との関わりを理解する。

3 授業の方法

配布資料，プロジェクターによる視聴覚教材の使用。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

前期と後期それぞれ定期試験を行い、最終的に前期と後期の定期試験の平均点を成績評価とする。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

教科書や授業内で配布した資料の復習を行うこと。

7 使用教材，教具

「生理学」医歯薬出版、「生理学インパクト」医道の日本社
「シンプル衛生公衆衛生学」南江堂

8 学生へのメッセージ

本授業では主に生理学と公衆衛生学の内容を重点的に学習します。

9 教員氏名（ 宮田 純 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校 鍼灸科 ）

実務経験の詳細（ 施術所での実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 総合領域 I（生体観察） ）

回数	授業内容
1	生理学 生理機能の特徴
2	公衆衛生学 衛生学・公衆衛生学の意義
3	生理学 体液の組成と働き
4	公衆衛生学 健康の概要
5	生理学 血液の組成と働き
6	公衆衛生学 健康管理
7	生理学 止血
8	公衆衛生学 衛生行政
9	生理学 心臓の構造と働き
10	公衆衛生学 食品と栄養
11	生理学 血管の構造と働き
12	公衆衛生学 日常生活環境
13	生理学 血圧
14	公衆衛生学 環境問題
15	生理学 循環調節
16	公衆衛生学 産業保健の意義
17	生理学 リンパ系
18	公衆衛生学 労働災害とその対策
19	生理学 呼吸器
20	公衆衛生学 精神保健の意義
21	生理学 呼吸運動
22	公衆衛生学 精神障害の現状と分類
23	生理学 呼吸の反射性調節
24	公衆衛生学 母子保健の意義
25	生理学 消化と吸収
26	公衆衛生学 乳幼児の健康
27	生理学 消化液
28	公衆衛生学 学校保健の意義
29	生理学 肝臓の働き
30	公衆衛生学 成人・高齢者保健の意義
31	定期試験
32	答案返却および解説
33	生理学 摂食の調節
34	公衆衛生学 感染症の種類（1）

35	生理学 栄養素の働き
36	公衆衛生学 感染症の種類（2）
37	生理学 エネルギー代謝
38	公衆衛生学 感染症予防の原則
39	生理学 各栄養素の働きと代謝
40	公衆衛生学 免疫
41	生理学 体温調節
42	公衆衛生学 消毒法
43	生理学 体熱の産生と放散
44	公衆衛生学 消毒の種類（1）
45	生理学 発汗とその調節
46	公衆衛生学 消毒の種類（2）
47	生理学 腎臓の構造
48	公衆衛生学 消毒の実際
49	生理学 腎臓の働き
50	公衆衛生学 院内感染の予防
51	生理学 尿生成
52	公衆衛生学 医療廃棄物
53	生理学 蓄尿と排尿
54	公衆衛生学 疫学概念と意義
55	生理学 ホルモンの特徴
56	公衆衛生学 疫学調査研究
57	生理学 ホルモンの種類とその働き（1）
58	公衆衛生学 保健統計の意義
59	生理学 ホルモンの種類とその働き（2）
60	公衆衛生学 主要な保健統計指標（1）
61	生理学 妊娠と出産
62	公衆衛生学 主要な保健統計指標（2）
63	定期試験
64	答案返却および解説